

福岡県の近世窯業関係遺跡

福岡県文化財調査報告書 第284集

2024

福岡県教育委員会

序

安土桃山時代末期、文禄・慶長の役に伴い、朝鮮半島から九州に渡来した多くの陶工たちによって、九州各地で国焼が興りました。この陶工たちによる新たな焼物技術の導入は、我が国の陶磁器の歴史にも大きな影響を与えました。

現在の福岡県域においては、筑前では黒田氏が高取焼を、豊前では細川氏が上野焼を興します。これらの窯は江戸時代初頭の茶人大名である小堀遠州が指導した遠州七窯としても有名です。筑後では、江戸時代初頭に田中氏の下で蒲池焼が興り、その後、久留米藩・柳河藩の下で、藩窯のみでなく、様々な民窯で焼物が焼かれました。

明治時代の廃藩置県により、多くの藩窯は廃窯に追い込まれますが、民窯として継続する窯もありました。特に小石原焼は、大正時代に柳宗悦、バーナード・リーチらによる民藝運動で高く称賛されたことで有名です。

福岡県教育委員会では、江戸時代以降に焼物が焼かれた場所を、近世窯業関係遺跡として捉え、現状を把握するために、令和2年度から緊急分布調査を開始し、4年にわたる調査を終えて、ここに報告書を刊行する運びとなりました。

焼物は現在の私たちの生活に欠かせない日用品であり、我が国における茶の湯文化の発展に大きく寄与してきました。その焼物を生産した窯跡について、今後、文化財として保存・活用していくなど、適切な保護の推進を図っていくことで、本県の特徴ある焼物の歴史を後世に残していくことができます。

近世窯業関係遺跡の調査や報告書の作成において、地元自治体を始め多くの方々にご支援・御助力いただきましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

令和6年3月31日

福岡県教育委員会
教育長 吉田 法 稔

例言

1. 本書は、令和2～5年度に国庫補助を受けて福岡県教育委員会が実施した福岡県内の窯業関係遺跡に関する調査報告書である。
2. 調査にあたっては福岡県近世窯業関係遺跡調査指導委員会を設置し、その指導のもとに現地調査や資料作成等を行った。
3. 本書における「窯業関係遺跡」は、焼物＝窯業に関わる構造物や痕跡並びにそれらが埋蔵されている場所を指している。主として近世を対象とするが、近代に続き操業された窯で遺跡となっているものも含めた。
4. 本書においては、窯跡等が近世の江戸時代を中心とすることもあり、原則として内容について言及する際には旧国や藩ごとに示した。現在の福岡県域は明治9年（1876）8月21日に確立したが、江戸期には、筑前に福岡藩・秋月藩のほか対馬府中藩領、中津藩領、幕府御料があり、筑後には久留米藩・柳河藩や下手渡藩（三池藩）、豊前には小倉藩・小倉新田藩・豊津藩・中津藩の一部などがあった。
5. 調査は、当該地区の市町村の協力のもとに実施した。また掲載した出土遺物は九州歴史資料館及び各市町村に保管されており、遺物実測図に所蔵先を明記した。
6. Ⅲ-2の重点調査の報告に使用した地図は、国土地理院発行1/25,000地形図を編集・加工したものである。
7. 本調査・報告に係る参考文献は、巻末にまとめて掲載した。
8. 本書に掲載した発掘調査の遺構写真・遺構実測図は、参考文献に掲げる報告書等から再録したものである。ただし、上畑窯跡実測図は新たに岡垣町教育委員会から提供を受けた。現況写真は、明示したものの以外は事務局で撮影したものである。
9. 本書は、Ⅰ・Ⅱは伊崎俊秋・岸本圭・坂本真一、Ⅲは岸本、坂本、遠藤啓介が執筆した。ⅣのⅠ・2は坂本、3は酒井芳司、4は岸本、Ⅴは坂本が担当し、編集は坂本が行った。

目次

I はじめに	1
1. 調査に至る経過	1
2. 調査の経過	2
3. 調査の組織	6
II 福岡県の近世窯業遺跡に関する調査	7
1. 福岡県の近世窯業の概要	7
2. 福岡県の近世陶磁の把握	8
3. 福岡県の埋蔵文化財と近世窯業遺跡の調査	10
4. 近世窯業遺跡の史跡指定等	13
5. 皿山の地名	15
III 福岡県近世窯業関係遺跡調査	17
1. 第一次調査（悉皆調査）	17
2. 第二次調査（重点調査）	17
3. 各遺跡の詳細	18
表1 福岡県近世窯業関係遺跡調査表 窯跡	20～45
表2 福岡県近世窯業関係遺跡調査表 関係遺跡	46・47
IV 総括	139
1. 調査成果	139
2. 福岡県における近世の窯跡と窯道具について	141
3. 文献史料調査の成果と課題	150
表3 歴史史料調査	152～163
4. 窯跡の保存と活用	164
V おわりに	167
○福岡県の窯業関係事象年表	168
○参考文献	172

I はじめに

1. 調査に至る経過

埋蔵文化財の保護にあたっては、その把握と周知が重要であり、このことは文化財保護法第95条に規定されている。埋蔵文化財は土地に埋蔵されているという性格上、把握にあたっては試掘・確認調査等の成果を反映させ、より精度を高めていく必要がある。福岡県教育委員会では、これまで昭和51～55年度（1976～1980）に『福岡県遺跡等分布地図』16冊を刊行し、県内の埋蔵文化財包蔵地の周知化を行った。それ以降、各自治体が主体となり、更なる分布調査や試掘・確認調査の積み重ねにより、埋蔵文化財包蔵地地図の精度を高めてきた。

埋蔵文化財として扱うべき遺跡の範囲については国による考え方が示されている。文化庁に設置された「埋蔵文化財発掘調査体制等の整備充実に関する調査研究委員会」（平成6年（1994）10月設置）は、平成10年（1998）6月に「埋蔵文化財の把握から開発事前の発掘調査に至るまでの取扱いについて」の報告を行った。これは文化庁記念物課（現文化財第二課）埋蔵文化財部門が所管するもので、この中で、埋蔵文化財として扱うべき遺跡の範囲は「全国に共通する原則としては、当面、次のとおりとするのが適切と考えられる」とした。

- ① おおむね中世までに属する遺跡は、原則として対象とすること。
- ② 近世に属する遺跡については、地域において必要なものを対象とすることができること。
- ③ 近現代の遺跡については、地域において特に重要なものを対象とすることができること。

この報告は同年9月29日付で「埋蔵文化財の保護と発掘調査の円滑化等について」として各都道府県教育委員会教育長宛てに通知・周知された。この「平成10年通知」をもって、条件付きながら近世の遺跡は「地域において必要なものを対象とすることができること」となり、さらには近現代の遺跡についても調査対象とすることができるようになった。また、埋蔵文化財保護対策等九州地区協議会でも、「九州地区埋蔵文化財発掘調査基準」を定め、埋蔵文化財として扱うべき遺跡の範囲については文化庁の考えと軌を一にしている。

そして、文化庁記念物課が監修した『発掘調査のてびき—集落遺跡発掘編—』（2010年5月）において、「埋蔵文化財は、……文字や記録のない先史時代はもとより、古代や中・近世さらには近・現代においても、文献史料だけでは知るこのできない歴史や文化を明らかにする手がかりとなるものである」（p2）とされた。さらには同書第三章第1節「2 埋蔵文化財包蔵地の範囲」において、「近世以降の遺跡の扱い」は「各地方公共団体では、今日的な観点から、埋蔵文化財として扱う範囲について再検討し、適切な保護措置をとることが求められる」（p51）としている。

埋蔵文化財の周知化は、各自治体の取組を主体とする一方、「地域において必要なもの」や「地域において特に重要なもの」という視点は、市町村域を越え、県内を俯瞰した評価が必要となる。そこで福岡県教育委員会では、遺跡の性格に応じた県内遺跡の詳細分布調査を進めてきた。平成24～28年度（2012～2016）『福岡県の中近世城館跡』（Ⅰ）～（Ⅳ）、平成29～令和元年度（2017～2019）『福岡県の戦争遺跡』の調査及び報告書の刊行がこれに該当する。

近世家業関係遺跡については、昭和30年（1955）に福智町釜ノ口窯跡、昭和54年（1979）直方市内ヶ磯窯跡を始めとし、早い段階から発掘調査が行われており、地域において必要なものとして扱われてきた。特に、北九州市菜園場窯跡、東峰村釜床1号窯跡、一本杉2号窯跡は発掘調査の結果、重要な価値

が見出され、県指定史跡（葉園場窯跡は移設保存したため県指定有形文化財（考古資料））として保護されている。福岡県内には近世初期から現在まで高取焼、上野焼を始めとした窯が操業しているが、その全容を把握するまでには至っていなかったため『福岡県の近世窯業関係遺跡』として調査することとした。当初は令和2年度（2020）から4年度（2022）の3カ年事業としたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大による緊急事態宣言発出等により現地調査や委員会開催ができず、調査期間を令和5年度（2023）まで延長することとした。

2. 調査の経過

a. 福岡県近世窯業関係遺跡調査基本方針

まず、窯業遺跡を調査するにあたり、その基本方針を定め、福岡県近世窯業関係遺跡調査指導委員会に諮った上で、その方針に則って実施していくこととした。基本方針は次のとおり定めた。

福岡県近世窯業関係遺跡調査基本方針

1 必要性と目的

福岡県内では、高取焼、上野焼を始め、近世以降多くの陶磁器が生産されている。また、近年では、小石原焼が重要無形文化財に指定され、技術の保持者として福岡善三氏が認定されるなど、県内の窯業に対する関心が高まっている。

現在、このような窯業を始めとした、近世以降の生産遺跡は、各自自治体にとって重要と考えられるもののみが記録保存調査の対象となっている。これらの遺跡は、県内における位置付けが十分にされていないものが多いことから、歴史上又は学術上重要なものがあるにもかかわらず、近年の開発により把握されないままに消滅したものもあると考えられる。

このため、福岡県教育委員会において、県内の近世以降の窯業関係の生産遺跡について悉皆調査を行い、現状の把握及び評価を行うことで、適切な保護の推進に資するものとする。また、それらの調査を通じ、地域の歴史を掘り起こすことで、新たな地域の魅力の創出にも繋がると考えられる。

2 対象・範囲

調査の対象は、江戸時代に営まれた陶磁器等の窯跡とする。その他、陶磁器に関連する生産関連遺跡（陶土・粘土等の原料採掘遺跡、工房跡など）も対象とする。

3 組織・体制

- (1) 調査は、文化財保護課と九州歴史資料館が連携して実施する。文化財保護課は事務手続と事業の統括を、九州歴史資料館は調査をそれぞれ主たる任務とする。
- (2) 調査の対象、方針やスケジュール、遺跡の評価に関して、学識経験者から指導・助言を受けるため「福岡県近世窯業関係遺跡調査指導委員会設置要項」を定める。

4 スケジュール

令和2年度：既存情報の把握、整理

令和3年度：一次調査（悉皆調査：基礎的な情報収集と整理）

二次調査（重点調査：重要遺跡の詳細調査）

令和4年度：二次調査（重点調査：継続調査）

令和5年度：二次調査（重点調査：補足調査）

調査内容に基づく成果報告書の作成

5 調査結果の取扱い

- ・調査の成果は調査報告書として刊行し、県内の文化財関係機関や図書館に送付して幅広く閲覧に供する。
- ・地域にとって必要なものについては、文化財保護法第95条に基づき、「埋蔵文化財包蔵地」に決定して保護の対象とし、周知の徹底を図る。
- ・重要な遺跡については、国、県又は市町村による史跡指定や登録による保護を推進する。

b. 第一次調査（悉皆調査）と調査指導委員会

令和2年度は事務局で協議を行い、「福岡県近世窯業関係遺跡調査基本方針」を定め、九州歴史資料館において、諸文献等を参照して基礎となる一覧表を作成した。この一覧表は、県内に所在する近世～近代（明治時代）の窯跡について書籍・県・市町村誌類や関係論文から情報を収集し、遺跡・関係遺構などを取り上げたものである。その内訳は、各旧国における陶磁器窯跡地名表（調査表1）に、筑前50件余、筑後30件余、豊前20件余を掲載した。窯業関係施設等の地名表（調査表2）は、参考事例として5件程載せたのみであった。それに参考文献一覧表を加えた。

この調査表1・2について、令和2年9月24日付2教文第1639号で「近世窯業関係遺跡に係る既存情報の整理について」の文書を県内60の自治体に送付し、11月末を締切として加除修正を依頼した。各窯跡については、県内を筑前・筑後・豊前の旧国名毎に分け、筑前50件、筑後31件、豊前22件の合計103件を確認した。また近世窯業関係遺跡に関わる、陶土の採取地や陶磁生産の作業場所、販売・管理をする施設、神社・記念碑・墓地などを対象とした関係遺跡としては、筑前16件、筑後5件、豊前4件の合計25件を確認した。

その成果をもとに、令和3年1月19日に第1回の福岡県近世窯業関係遺跡調査指導委員会（以下、委員会という）を開催する運びとなったが、新型コロナウイルス感染症感染拡大による非常事態宣言が発せられたこともあり、オンラインによる会議開催となった。委員長に大橋康二委員を選出し、福岡県近世窯業関係遺跡調査基本方針のもと調査を進めていくことやスケジュール等についての説明を行い、意見をいただいた。

令和3年度第2回委員会は東峰村で開催し、釜床1号（県指定）・2号窯跡、一本杉1号・2号（県指定）窯跡を視察した。委員会では新型コロナウイルス感染症感染拡大による緊急事態宣言発出により、重点調査が遅れているため、スケジュールを1年延長（令和5年度まで）することと重点調査のリスト内容



第3回近世窯業関係遺跡調査指導委員会



第5回近世窯業関係遺跡調査指導委員会

について了承を得た。また陶片だけではなく、窯道具の実態を調べる必要について、意見をいただいた。

令和4年度は委員会を2回開催した。第3回委員会は福智町で開催し、直方市永満寺年間窯跡、福智町皿山本窯跡、釜ノ口窯跡、岩屋高麗窯跡を視察した。委員会では現地調査で位置が特定できない窯跡については、古地図等を確認するように指摘を受けた。また窯跡の時期については、文献等の記録と異なる場合があるので確認が必要との指摘を受けた。第4回委員会はみやま市で開催し、筑後市赤坂焼窯跡、みやま市二川焼窯跡を視察した。委員会ではできるだけ現地の窯の有無を確認するよう指摘を受け、令和5年度刊行の調査成果報告書についても指摘を受けた。

令和5年度は第5回委員会を須恵町で開催し、須恵町立歴史民俗資料館及び須恵町立美術センター久我記念館所蔵の須恵焼資料を実見した。委員会では報告書の内容について協議した。

委員会一覧

	名 称	日 時	場 所
第1回	福岡県近世窯業関係遺跡調査指導委員会	令和3(2021)年1月19日	福岡県庁4階会議室(オンライン)
第2回	福岡県近世窯業関係遺跡調査指導委員会	令和3(2021)年12月3日	東峰村小石原庁舎第1会議室
第3回	福岡県近世窯業関係遺跡調査指導委員会	令和4(2022)年5月17日	福智町中央公民館2階研修室
第4回	福岡県近世窯業関係遺跡調査指導委員会	令和4(2022)年12月27日	みやま市まいピア高田第1会議室
第5回	福岡県近世窯業関係遺跡調査指導委員会	令和5(2023)年11月10日	須恵町アザレアホール会議室

c. 第二次調査(重点調査)

第一次調査を基に、福岡という地域の特徴を示す遺跡と遺構の残りが極めて良く、保存して価値を伝えるのに適した遺跡という2つの選定基準に基づき、特に重点的に調査をしなければならない場所を24件選定した。その内訳は高取焼関係9件、上野焼関係3件、地域窯として筑前4件、筑後5件、豊前4件である。すでに発掘調査で遺跡の内容が明らかな遺跡については、重点調査から除外している。

重点調査では、遺跡の位置の特定・現状の把握・写真撮影等の記録の作成を行い、調査に当たっては原則として当該市町村の文化財担当者とともに現地確認を行った。重点調査は、第2回委員会時に調査候補リストを上げるために、4月の東峰村の小石原焼関係から着手した。まず県指定史跡である小石原窯跡群の釜床1号窯跡と一本杉2号窯跡の現況の確認と窯跡に関連する天照太神宮から始めた。同年8月には、上野焼のある福智町の皿山本窯跡、釜ノ口窯跡、岩屋高麗窯跡の現況確認を行った。同年12月には東峰村で第2回委員会を開催し、そこで調査候補リスト25件について、委員会では承を得て、1月には朝倉市浄満寺窯跡、野鳥窯跡、2月には香春町田香焼窯跡の調査を行った。令和4年度はさらに重点調査を進め、特に筑後地域で筑後市2件、八女市5件、みやま市1件、豊前地域でみやこ町2件、上毛町1件の調査を行った。これら地方窯以外にも小石原焼関連で東峰村7件も調査を行った。令和5年度は報告書を作成する過程で、委員会時に指摘された瓦窯の調査として東峰村の奥畑瓦窯跡、嘉麻市から新たに情報提供のあった野口窯跡と事務局で必要と判断した福岡市の野間焼窯跡と関連遺構、大牟田市の黒崎焼窯跡、須恵町の役所畑新窯跡と昨年度確認できなかったみやこ町の乙子焼窯跡を追加調査した。

d. 調査経過一覧

令和3～5年度の3年間の調査経過について、前述したことも含めて列記する。

令和3年度

日時	市町村名	調査地	備考
4月13日	朝倉郡東峰村	釜床1号窯跡 天照太神宮 小石原伝統産業館	窯跡と関連遺跡の確認 小石原焼の展示視察
4月23日	朝倉郡東峰村	一本杉窯跡 十文字窯跡	十文字窯跡のみ窯跡未確認
8月5日	田川郡福智町	釜ノ口窯跡 皿山本窯跡 岩屋高麗窯跡	岩屋高麗窯跡のみ窯跡未確認
12月3日	朝倉郡東峰村	釜床1号窯跡 天照太神宮 一本杉窯跡 陶神(石碑)など	第2回委員会時の視察
1月28日	朝倉市	浄満寺窯跡 野鳥窯跡	野鳥窯跡のみ窯跡未確認だが、遺物は採集
2月25日	田川郡香春町	田香焼窯跡 陶工の墓 香春町歴史資料館	窯跡と関連遺跡の確認

令和4年度

日時	市町村名	調査地	備考
4月8日	筑後市	赤坂焼窯跡 赤坂神社 坂東寺焼窯跡	坂東寺焼窯跡のみ未確認だが、石碑を確認
4月22日	朝倉郡東峰村	釜床2号窯跡 中野上の原窯跡 火口谷1号窯跡	釜床2号窯跡の場所と高取八山夫妻の墓を確認
4月27日	八女市	星野十龍焼窯跡 鹿子生焼窯跡 池の本焼窯跡	星野十龍窯跡の場所と鹿子生焼窯跡の消滅を確認 池の本焼窯跡のみ未確認
5月17日	田川郡福智町	釜ノ口窯跡 皿山本窯跡 永満寺宅間窯跡 岩屋高麗窯跡	第3回委員会時の視察
5月27日	朝倉郡東峰村	池の谷窯跡 大明神窯跡 旧上組・旧下組窯跡	大明神窯跡と旧上組・旧下組窯跡は未確認
6月9日	京都府みやこ町	乙子焼窯跡 錦原皿山窯跡	窯跡未確認
6月15日	八女市	本星野焼窯跡 釈形焼窯跡 (再調査) 池の本焼窯跡	窯跡の確認
7月1日	朝倉郡東峰村	(再調査) 大明神窯跡 旧上組・旧下組窯跡	大明神窯跡のみ未確認
12月4日	みやま市	二川焼窯跡 [富重窯・角窯]	窯跡の確認
12月14日	嘉麻市	黒田窯跡	窯跡の確認
12月27日	みやま市	二川焼窯跡 [富重窯・角窯]	第4回委員会時の視察
2月14日	朝倉郡東峰村	金敷様裏窯跡	3号窯跡のみ確認し、1・2号窯跡は未確認
2月20日	築上郡上毛町	唐原焼窯跡	窯跡の確認
3月17日	みやま市	(再調査) 二川焼窯跡 [角窯]	窯跡の確認

令和5年度

日時	市町村名	調査地	備考
4月12日	朝倉郡東峰村	奥畑瓦窯跡	窯跡の確認
4月21日	嘉麻市	黒田窯跡 野口窯跡	野口窯跡のみ窯跡未確認だが、遺物は採集
5月2日	福岡市 糟屋郡須恵町	野間焼窯跡 山王神社 陶工の墓 役所畑新窯跡	窯跡と関連遺跡の確認
6月14日	京都府みやこ町	乙子焼窯跡	窯跡の確認
8月17日	大牟田市	黒崎焼窯跡	窯跡の確認
11月10日	糟屋郡須恵町	須恵焼窯跡 [福岡藩御用窯跡] 役所畑新窯跡	第5回委員会時の視察
11月29日	八女市	男ノ子焼窯跡	窯跡の確認

3. 調査の組織

福岡県窯業関係遺跡調査指導委員会では委員を3人に委嘱した。また、4か年の窯業遺跡に関する調査において、市町村の文化財担当者のみならず、関係諸機関、土地所有者など実に多くの方々にご協力・御支援をいただいた。関係者を含めて下記に列記し、深く感謝いたします。

○福岡県近世窯業関係遺跡調査指導委員会

委員長：大橋康二（佐賀県立九州陶磁文化館名誉顧問）

委員：辻田淳一郎（九州大学大学院人文科学研究院准教授）

宮地英敏（九州大学附属図書館記録資料館准教授）

[事務局]

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
[福岡県教育委員会]				
教育長	城戸秀明	吉田法稔	吉田法稔	吉田法稔
副教育長	木原 茂	寺崎雅巳	上田哲子	上田哲子
教育監	寺崎雅巳	合屋伸一	深瀬信也	山本博康
教育総務部長	上田哲子	上田哲子	松永一雄	松永一雄
文化財保護課長	綾部耕士	明永好弘	明永好弘	比山裕隆
同 参事			田上 稔	
同 参事兼課長技術補佐	田上 稔	田上 稔		杉原敏之
同 課長技術補佐			杉原敏之	杉原敏之 <small>（佐賀県立九州陶磁文化館）</small>
同 企画・埋蔵文化財係長	杉原敏之	杉原敏之		大庭孝夫
同 企画・埋蔵文化財係	宮地聡一郎	宮地聡一郎	大庭孝夫	岡田 諭
	大庭孝夫	大庭孝夫	城門義廣	城門義廣
	城門義廣	城門義廣	出見優人	出見優人
[九州歴史資料館]				
館長	吉田法稔	城戸秀明	城戸秀明	城戸秀明
副館長	安永千里	安永千里	吉村靖徳	吉村靖徳
学芸調査室学芸研究班		酒井芳司	酒井芳司	酒井芳司
		遠藤啓介	遠藤啓介	遠藤啓介
文化財調査室長	吉村靖徳			
埋蔵文化財調査室長		吉村靖徳		吉田東明
文化財調査室室長補佐	伊崎俊秋			
同 文化財調査班長	森井啓次	森井啓次	森井啓次	進村真之
同 文化財調査班		小川泰樹	小川泰樹	岸本 圭
	坂本真一	坂本真一	坂本真一	坂本真一

現地調査その他でお世話になった方々（敬称略：順不同）

中島圭（朝倉市教育委員会）、嶋田光一（飯塚市教育委員会）、大津諒太（うきは市教育委員会）、中村渉・宮本博喜・前崎智行（大牟田市）、朝原泰介（岡垣町教育委員会）、尾方禎和・舌間悟（嘉麻市教育委員会）、野村憲一・足石高伸（春香町教育委員会）、福永将大（九州大学総合研究博物館）、水原道範・小澤太郎（久留米市）、矢野和昭（上毛町教育委員会）、山下啓之（須恵町教育委員会）、日高正幸（元東峰村教育委員会）、内野嗣昭（東峰村教育委員会）、太田富隆、高取焼宗家、高取八仙、柳瀬眞一、田村悟（直方市教育委員会）、佐々木四十臣・佐藤好英（福岡県文化財保護指導委員）田上勇一郎（福岡市）、井上勇也・小池史哲（福智町教育委員会）、木村達美・中尾克剛（みやこ町教育委員会）、猿渡真弓・瓜生建（みやま市教育委員会）、角弘恵、伊崎俊秋（八女市岩戸山歴史文化交流館）、増佳江・江頭俊介（八女市教育委員会）、谷川雅啓、平岡邦幸

II 福岡県の近世窯業遺跡に関する調査

1. 福岡県の近世窯業の概要

福岡県は明治9年(1876)に筑前国・筑後国・豊前国6郡をもって成立した。この三国には、それぞれ藩によって経営された、あるいは藩への献上品を焼いた窯がある。筑前福岡藩の高取焼、豊前小倉藩の上野焼、筑後久留米藩の坂東寺焼等、筑後柳河藩の蒲池焼が該当する。以下に旧国単位で近世窯業を概観する。

日本の近世窯業の発端は、文禄・慶長の役によってもたらされた陶工の技術にある。本県では筑前の高取焼と豊前の上野焼がそれに該当し、文献上で高取焼が八山、上野焼が尊楷の手によるものとされる。高取焼については、永満寺宅間窯に始まり、内ヶ磯窯で本格的な操業が行われる。八山が帰国を願い出たことにより、藩主から盤居を命ぜられ山田窯に移るが、その後、許しを得て白旗山窯で生産を行う。後に、窯を小石原鼓の釜床窯に移し、更には現在の福岡市へ移し大窟谷窯、東皿山窯で幕末の廃藩置県まで操業を続ける。これら高取焼は陶器を焼くものであったが、白旗山窯では試験的に磁器焼成がなされている。なお、永満寺宅間窯に近い黎明期のものとして上畑窯・千石窯が挙げられるが、操業期間は短期間の可能性が高い。

筑前秋月藩では18世紀以降に城下の浄満寺窯・野鳥窯で陶器生産が行われた。

筑前の民窯としては、高取家の中から小石原地区で主に日用品を焼く系譜が成立し、この延長に現在の小石原焼がある。一番古く位置付けられるのが一本杉窯であり、その後、中野上の原窯、火口谷窯、金数様東窯へと続く。大分県日田市の小鹿田焼もまた18世紀初頭に小石原から技術が伝えられたものである。中野上の原窯では肥前陶工を招き、磁器生産に着手するが、材料の問題で生産は続かなかった。その後の筑前における磁器生産は、須恵焼窯で宝暦年間に本格的な窯が築かれ、以後藩窯と民窯を繰り返し変遷しながら、かなりの生産量を誇ったとみられる。

筑前の福岡地区にも18世紀以降に高取焼の流れを汲む西皿山窯のほか、能古焼や野間焼等の民窯が営まれた。また、遠賀川上流域の嘉穂地域にも黒田焼等の民窯が複数営まれた。

豊前上野焼が本格的に焼かれた最初の窯は釜ノ口窯である。開窯年代は明らかでないが、細川氏が小倉城に入城した慶長8年(1603)以降とされる。釜ノ口窯は細川氏の肥後転封により閉窯したとされ、その後は皿山本窯に移り、小笠原氏の下、幕末の廃藩置県までの長期に渡り操業された。小倉藩のお茶

しみ窯として小倉城下に菜園場窯が営まれた。上野焼の陶工は田香焼等の多くの民窯に移った記録が残されている。

豊前豊津地域にも乙子焼窯・錦原皿山窯等がみられるが、藩の奨励策に基づくものと考えられる。

筑後国では田中吉政が入国後、蒲池焼を開かせたと伝えられる。元和6年(1620)の田中家改易後、柳河藩は立花宗茂が復讐、久留米藩には有馬豊氏が転封される。久留米藩は坂東寺焼を開窯した。久留米藩のお楽しみ窯としては、柳原焼と東野亭焼がある。18世紀前半には朝妻窯で磁器が本格的に焼かれるようになった。19世紀になると陶器生産は赤坂焼が中心となったようである。

筑後の特色として、茶の生産との関係で茶壺が多く焼かれた点が挙げられる。寛永9年(1632)や正保4年(1647)の記録に「黒木の焼き物」とあり、釈形焼の可能性もある。矢部川を境として北は久留米藩、南は柳河藩に分かれるが、八女地域の山中では本星野焼・星野焼・男ノ子焼等、茶の貯蔵器を中心に陶器生産が継続された。

また筑後地域では、肥前陶工により始められた二川焼、磁器・陶器の両者を焼いた一の瀬焼・黒崎焼等、民窯も多く営まれた。

県内の近世窯業は廃藩置県により藩の支援が失われた段階で、廃窯に追い込まれたものが多い。しかし、休止期間をおかず再興された地区も少なくない。特に大正～昭和期に展開した柳宗悦らによる民藝運動によって小石原焼や二川焼が注目されるようになり、多くの人々の関心を得ることとなったことは有名である。小石原焼と上野焼は、前者は昭和50年(1975)、後者は昭和58年(1983)に経済産業大臣による伝統的工芸品の指定を受け、福岡県を代表する焼物と位置付けられている。

2. 福岡県の近世陶磁の把握

福岡県内の焼物や窯跡についてどのように把握されていたか、数多くある文献の中で『陶器講座』所収「日本諸国窯一覽」・『原色陶器大辞典』・『福岡県百科事典』及び『近世窯業遺跡データ集』の4件について見ると、かなり多くの事例のあることがわかる。なかには鹿原を鹿原と間違えているものや、誤植・誤認のいずれとも不明の焼物名・窯名も見られ、現時点で確認できないものも幾つかある。しかしながら、今回の悉皆調査の調査表は、これらを参考にして作成した(市町村名は当時のまま記載)。

『日本諸国窯一覽』(『陶器講座』第7巻)(横河民輔;1935年12月;雄山閣)

筑前:石崎焼(筑前)、内ヶ磯窯(筑前内ヶ磯)、糟尾焼(筑前)、小石原焼(筑前小石原)、鹿原焼(筑前鹿原)、白旗山焼(筑前合屋)、須恵焼(筑前須恵)、宗七焼(筑前博多)、高取焼(筑前高取)、中野焼(筑前)、西皿山焼(筑前西新町)、野間焼(筑前野間)、博多瓦町窯(筑前博多)、東山窯(筑前)

筑後:赤石焼(筑後)、朝妻焼(筑後朝妻)、蔵敷焼(筑後)、久留米焼(筑後)、二川焼(筑後渡瀬)、星野焼(筑後久留米)、水田焼(筑後)、柳川焼(筑後柳川)、柳原焼(筑後久留米)

豊前:上野焼(豊前上野)、陶軒焼(豊前)、常山焼(豊前)、太郎助焼(豊前)、田香焼(豊前)、水町焼(豊前)

『原色陶器大辞典』(加藤藤九郎編;1972年10月;淡交社)

筑前:内ヶ磯窯・永満寺窯(直方市)、折尾窯(北九州市)、小石原焼〔中野焼〕・鼓村窯(小石原村)、鶯谷焼・鹿原窯・宗七焼〔博多焼〕・茶屋の山窯・西新町窯・西皿山窯・残島高取・野間焼・博多人形・東皿山(福岡市)、白旗山窯(飯塚市)、須恵焼(須恵町)、高取焼、遠州高取、遠州七

窯、古高取、高取腰窯、高取大海、高取松風・高取耳付、高取面茶碗、博多文琳、五十嵐次左衛門・新九郎・高取善十郎・八蔵〔八山〕(高取焼陶工)、岡平蔵(博多人形陶工)、新藤安平(須恵焼) 筑後：青木窯・朝妻焼・久留米焼・十三部焼・野中窯・日渡窯・柳原焼(久留米市)、赤坂窯・野町窯・坂東寺焼・水田窯(筑後市)、朝田窯(浮羽町)、今村窯・長岡窯〔鹿子生焼〕・釈形焼(黒木町)、蒲池焼〔柳川焼〕(柳川市)、黒崎焼(大牟田市)、姥ヶ懐窯・二川焼(高田町)、星野焼(星野村)、家長彦三郎(柳川焼陶工)、中尾米吉(二川焼陶工)

豊前：上野焼(赤池町)、香春窯(香春町)、鳩軒、小倉焼・水町焼(北九州市)、太部介焼・田香焼(大任町)、豊前焼、上野喜蔵・十時甫快・十時甫紹・十時孫左衛門・渡久左衛門(上野焼陶工)

上記のほか、小林賢一郎・黒田政憲、牟田久次・立花実山(南方録)といった福岡県の出身者もしくは所縁のある人などもみられる。

『福岡県百科事典』(1982年11月：西日本新聞社)

筑前：内ヶ磯窯跡(直方市)、小石原焼(朝倉郡小石原村)、須恵焼(糟屋郡須恵町)、千石焼(鞍手郡宮田町)、宗七焼(福岡市博多区)、高取焼、津屋崎人形(宗像郡津屋崎町)、博多人形(福岡市博多)、野間焼(福岡市南区)。なお、高取焼についてはその解説の中で上畑窯跡(遠賀郡岡垣町)、永満寺宅間窯跡(直方市)、内ヶ磯窯跡(直方市)、山田窯跡(山田市)、白旗山窯跡(飯塚市)、小石原鼓窯跡・小石原中野窯跡(朝倉郡小石原村)、大鋸谷窯跡(早良郡田嶋村)、龜原窯跡(早良郡龜原村)に触れている。

筑後：赤坂人形(筑後市)、赤坂焼(筑後市赤坂)、朝田焼(浮羽郡浮羽町)、朝妻焼(久留米市)、一ノ瀬焼(浮羽郡浮羽町)、蒲池焼(柳川市)、坂東寺焼(筑後市)、二川焼(三池郡高田町)、星野焼(八女郡星野村)、水田焼(筑後市)、柳原焼(久留米市)

豊前：上野焼(田川郡赤池町)、豊前焼

これ以外にも、上野喜蔵や高取八蔵・小島与一・中ノ子タミなどの個人及び窯道具・陶土・登窯といった用語についても取り上げられている。

『近世窯業遺跡データ集』|福岡県|(1997年3月：国立歴史民俗博物館研究報告 第73集)

(福岡県の地名表は副島邦弘が作成)

筑前：能古窯・西山山窯・東皿山窯・今川高取窯・大鋸谷窯・宗七窯・野間窯・友泉亭窯(福岡市)、須恵窯(須恵町)、上畑窯(岡垣町)、犬鳴窯・朝谷窯(若宮町)、千石窯(宮田町)、白旗山窯(飯塚市)、内ヶ磯窯・永満寺宅間窯(直方市)、山田窯(山田市)、浄満寺窯・野鳥窯(甘木市)、小石原中野窯・鼓窯(小石原村)

筑後：柳原窯・朝妻窯・東野亭窯(久留米市)、田川窯(三瀬町)、坂東寺窯・赤坂(三原)窯・水田窯・野町窯(筑後市)、蒲池(柳河)窯(柳川市)、男ノ子窯(立花町)、黒崎窯(大牟田市)、二川窯(高田町)、今村窯・鹿子生窯・釈形窯(黒木町)、星野(十瀬)窯(星野村)、朝田(一の瀬)窯(浮羽町)

豊前：菜園場窯(北九州市)、釜ノ口窯・皿山本窯(赤池町)、岩谷高麗窯(方城町)、田香窯(香春町)、田香窯(大任町)

なお、『角川日本地名大辞典 40 福岡県』(1988年3月：角川書店)には、皿山の地名として福岡市南区があり、ほかに皿山公園(須恵町)・皿山町(北九州市小倉北区)が示され、また各地の地域産業

として次のようなことが掲載されている。

筑前：福岡市早良区の「御国焼と高取焼」に大鋸谷・鹿原東皿山窯・西皿山窯

直方市の「芸能と文化」の項に高取焼の窯跡

小石原村の「小石原焼の生産」

須恵町の「皿山焼」

筑後：筑後市の「水田焼・坂東寺焼・赤坂焼」

星野村の「茶・金山・星野焼」

豊前：赤池町の「細川氏と上野焼」

大任町の「田香焼」

3. 福岡県の埋蔵文化財と近世窯業遺跡の調査

a. 埋蔵文化財の把握

福岡県では、昭和51～55年度（1976年4月～1981年3月）に『福岡県遺跡等分布地図』16冊を刊行した。それは北九州市・福岡市の両政令市を除く地域について、当時の福岡県教育庁の16か所の教育出張所の管轄範囲ごとに取りまとめたものであり、この時にリストアップされた遺跡数は、一部に天然記念物や社寺等を含む17,169か所であった。

遺跡の把握は埋蔵文化財の保護の基本であり、各地方自治体の根幹である市町村が主体となって、その後も顕意遺跡の把握に努めており、当然のことながら遺跡数は増加傾向にある。これらの遺跡数は、その大半が中世までの遺跡であり、近世、近代の遺跡は少ないものの、最近では少しずつ増加している。

現時点で福岡県の近世、近代の窯業関係遺跡として遺跡地図に掲載されている箇所（周知の埋蔵文化財包蔵地）は下記のとおりである。

筑前

市町村名	窯跡名	包蔵地名及び番号
直方市	永満寺宅間窯跡	県番号 050117「高取焼窯跡（宅間窯）」 市番号 94「永満寺宅間窯跡」
直方市	内ヶ磯窯跡	県番号 050118「高取焼窯跡（内ヶ磯窯跡）」 市番号 55「内ヶ磯窯跡」
遠賀郡岡垣町	上畑窯跡	県番号 390163「上畑窯跡」 町番号 390163「上畑窯跡」
宮若市	千石窯跡	県番号 410348「千石窯跡」
宮若市	犬鳴窯跡	県番号 440255「犬鳴窯跡」
飯塚市	白旗山窯跡	県番号 070335「高取焼白旗窯跡」 市番号 414「白旗山窯跡」丘陵先端に3基
飯塚市	高取八山窯跡	市番号 431「高取八山窯跡」〔消滅〕
嘉麻市	山田窯跡	県番号 090013「古高取山田窯跡」 市番号 2078「古高取山田窯跡」 ※昭和10（1935）年に一部、発掘。現在、ボタ山の下に埋没
嘉麻市	猪之鼻窯跡	市番号 2076「猪之鼻窯跡」
嘉麻市	大庭夫婦の墓	県番号 090014「大庭源太夫、夫婦の墓」

嘉麻市	黒田窯跡	市番号 2036
嘉麻市	野口窯跡	市番号 2169
糟屋郡須恵町	福岡藩磁器御用窯跡	町番号 290154
糟屋郡須恵町	役所畑新窯跡	町番号 290161
朝倉郡東峰村	皿山古窯跡	県番号 550015 「皿山古窯跡」
朝倉郡東峰村	奥畑瓦古窯跡	県番号 550015 「皿山古窯跡」 村番号 15 「奥畑瓦古窯跡」
朝倉郡東峰村	一本杉古窯跡	1号県番号 550061 村番号 44 2号県番号 550062 村番号 45
朝倉郡東峰村	十文字古窯跡	県番号 550058 村番号 46
朝倉郡東峰村	金敷榎真古窯跡	1号県番号 550058 村番号 54 2号県番号 550059 村番号 55 3号県番号 550060 村番号 56
朝倉郡東峰村	旧下組古窯跡	県番号 550055 村番号 59 [昭和32年頃まで操業した共同窯]
朝倉郡東峰村	大明神古窯跡	県番号 550056 村番号 68 [19世紀代と推定される窯]
朝倉郡東峰村	池ノ谷古窯跡	村番号 72
朝倉郡東峰村	旧上組古窯跡	県番号 550057 村番号 73
朝倉郡東峰村	火口谷古窯跡	1号県番号 550053 村番号 77 2号県番号 550054 村番号 78
朝倉郡東峰村	中野上の原古窯跡	県番号 550052 村番号 80
朝倉郡東峰村	釜床古窯跡	1号県番号 550050 村番号 95 2号県番号 550051 村番号 96
朝倉郡東峰村	採土場跡	村番号 42 ※陶土を採掘時に出た石などを円墳状に盛ったもので8か所ほどある
朝倉郡東峰村	陶神	村番号76※祭日は10月10日。自然石で高さ133cm、幅60cm、厚さ46cm。小石原工芸館跡地にあり
朝倉郡東峰村	火の神様	村番号84〔石祠に祀られる〕
福岡市	今川高取窯跡	市番号 2146 解除

筑後

市町村名	窯跡名	包蔵地名及び番号
久留米市	朝妻焼窯跡	県番号 030253 「朝妻焼窯跡」
うきは市	一ノ瀬焼窯跡	県番号 620024 「一ノ瀬焼古窯跡」 市番号 076 「隈上・朝田原遺跡群」の中に「一ノ瀬窯跡」あり
八女市	男ノ子焼窯跡	県番号 720146 「男ノ子焼窯跡」
柳川市	浦池焼窯跡	県番号 080082 「浦池焼窯跡」
みやま市	姥ヶ懐窯跡	県番号 800001 「姥ヶ懐窯跡」 市番号 0172 「姥ヶ懐窯跡」 ※窯は現存せず
みやま市	二川焼窯跡	県番号 800005 ～ 800008 「二川焼窯跡」 市番号 0148 ①～④ 「二川焼窯跡」 ①②は消滅、③④は現存
大牟田市	黒崎焼窯跡	市番号 452 「黒崎焼窯跡」

豊前

市町村名	窯跡名	包蔵地名及び番号
田川郡福智町	上野山窯跡	県番号 890014「上野山窯跡」
田川郡福智町	釜ノ口窯跡	県番号 890015「釜の口窯跡」
田川郡福智町	岩屋高麗窯跡	県番号 840002「岩屋高麗窯跡」
田川郡香春町	田香焼窯跡	町番号 225「田香焼窯跡」
京都郡みやこ町	乙子焼窯跡	町番号 910226「乙子焼窯跡」
京都郡みやこ町	錦原山窯跡	県番号追加 920140「石走り南遺跡」 町番号 920112「石走り南遺跡」 ※帝釈天山麓に所在。近世の操業免許の記録あり。遺物出土
北九州市	菜園場窯跡 (愛宕遺跡)	市番号 2023「愛宕遺跡」

b. 埋蔵文化財としての近世窯跡の調査

近世の窯跡等の遺跡として、これまでに埋蔵文化財としての調査対象となった事例は下記のとおりである。なお、明治・大正・昭和 20 年までの戦前期のみならず、文化財保護法が施行された昭和 25 年以降においても資料採集などの目的で個人的に調査された事例や発掘は無数にあったと思われるが、それらに関しては十分な把握はできていない。

筑前

窯跡名	所在地	調査期間	調査主体
内ヶ磯窯跡	直方市	〈第 1 次〉 1979 年 9 月 17 日～12 月 6 日 〈第 2 次〉 1980 年 9 月 10 日～11 月 20 日 〈第 3 次〉 1981 年 5 月 19 日～6 月 23 日 〈第 4 次〉 1995 年 8 月 24 日～10 月 30 日 〈第 5 次〉 1997 年 2 月～3 月 31 日 〈第 6 次〉 1997 年 5 月 6 日～10 月 18 日 〈第 7 次〉 1998 年 5 月 12 日～1999 年 3 月 19 日 〈第 8 次〉 1999 年 6 月 18 日～2000 年 3 月 13 日	直方市教育委員会 福岡県教育委員会
永満寺宅間窯跡	直方市	1982 年 11 月 15 日～12 月 11 日	直方市教育委員会
大鴨窯跡	宮若市	[1 号窯] 〈第 1 次〉 1986 年 9 月 30 日～11 月 15 日 〈第 2 次〉 1987 年 4 月 14 日～5 月 19 日 [2 号窯] 1987 年 5 月～7 月	福岡県教育委員会
中野上の原窯跡	朝倉郡東峰村	〈第 1 次〉 1987 年 6 月 15 日～7 月 18 日 〈第 2 次〉 1989 年 9 月 22 日～12 月 12 日	小石原村教育委員会
白旗山窯跡	飯塚市	[1 号窯] 1987 年 8 月 1 日～9 月 2 日 1990 年 1 月 10 日～3 月 22 日 [2 号窯] 1988 年 8 月 1 日～9 月 9 日 1990 年 1 月 10 日～3 月 22 日 [3 号窯] 1988 年 8 月 1 日～9 月 9 日	飯塚市教育委員会
火口谷窯跡	朝倉郡東峰村	[1 号窯] 〈試掘〉 1988 年 9 月 5 日～10 月 1 日 〈第 1 次〉 1993 年 8 月 2 日～12 月 21 日 [2 号窯] 1995 年 9 月 20 日～11 月 30 日	小石原村教育委員会
能古焼窯跡	福岡市西区	1988 年 10 月 24 日～12 月 2 日	九州大学

釜床1号窯跡	朝倉郡東峰村	〈試掘〉1990年12月14日～1991年2月2日 〈第1次〉1991年9月1日～10月14日	小石原村教育委員会
金敷様裏3号窯跡	朝倉郡東峰村	1992年10月20日～11月27日	小石原村教育委員会
一本杉窯跡	朝倉郡東峰村	[1号窯] 1992年10月20日～11月27日 [2号窯] 1994年9月6日～12月19日	小石原村教育委員会
上畑窯跡	遠賀郡岡垣町	1994年1月8日～2月5日	岡垣町教育委員会
千石窯跡	宮若市	1994年11月24日～12月28日	宮田町教育委員会
西血山窯跡	福岡市早良区	2005年2月17日～2005年5月17日	福岡市教育委員会
須恵焼窯 〔福岡藩磁器御用窯跡〕	糟屋郡須恵町	〈第1次〉2006年12月1日～2007年3月30日 〈第2次〉2007年12月4日～2008年3月31日 〈第3次〉2008年4月22日～2009年3月31日 〈第4次〉2009年7月1日～2010年3月31日	須恵町教育委員会

筑後

窯跡名	所在地	調査期間	調査主体
朝妻焼窯跡	久留米市	〈第1次〉1992年1月下旬～3月 〈第2次〉2015年2月12日～3月31日	久留米市教育委員会
東野亭焼窯	久留米市	1998年10月14日～12月28日	久留米市教育委員会

豊前

窯跡名	所在地	調査期間	調査主体
釜ノ口窯跡	田川郡福智町	1955年5月6日～5月15日	日本陶磁協会
菜園場窯跡	北九州市小倉北区	1982年12月9日～1983年9月30日	北九州市教育文化事業団

4. 近世窯業遺跡の史跡指定等

a. 福岡県内の事例

福岡県においてこれまでに、近世の窯跡等の遺跡として史跡等に指定されている事例は次のとおりである。

(福岡県) 市町村指定史跡

窯跡名	所在地	指定日
唐原焼窯跡	築上郡上毛町	昭和49年(1974)11月25日
田香焼窯跡	田川郡大任町	昭和51年(1976)10月1日
永満寺宅間窯跡	直方市	昭和63年(1988)3月15日
能古焼古窯跡	福岡市	平成2年(1990)3月29日

福岡県指定史跡

窯跡名	所在地	指定日
福岡藩磁器御用窯跡	糟屋郡須恵町	昭和55年(1980)3月1日
小石原窯跡群 釜床1号窯跡 一本杉2号窯跡	朝倉郡東峰村	平成8年(1996)5月31日

福岡県指定有形文化財（考古資料）

窯跡名	所在地	指定日
菜園場窯跡 附出土遺物	北九州市	昭和62年（1987）5月9日

b. 全国の事例

文化庁国指定文化財等データベースに拠ると、安土桃山時代末期から江戸時代に及ぶ窯跡等の国指定史跡の事例は次のとおりである。

窯跡名	所在地	指定日
肥前陶器窯跡	佐賀県唐津市・武雄市・多久市	昭和15年（1940）2月10日 / 追加 平成17年（2005）7月14日
備前陶器窯跡 伊部南大窯跡 伊部西大窯跡 伊部北大窯跡 医王山窯跡	岡山県備前市	昭和34年（1959）5月13日 / 追加 平成21年（2009）2月12日
元屋敷陶器窯跡	岐阜県土岐市	昭和42年（1967）12月11日
瀬戸窯跡 小長曾陶器窯跡 瓶子陶器窯跡	愛知県瀬戸市	昭和46年（1971）7月13日 / 追加 平成27年（2015）10月7日
九谷磁器窯跡	石川県加賀市	昭和54年（1979）10月23日 / 追加 平成17年（2005）3月2日 / 追加 平成18年（2006）7月28日
肥前磁器窯跡 天狗谷窯跡 山辺田窯跡 原明窯跡 百間窯跡 泉山磁石場跡 不動山窯跡	佐賀県西松浦郡有田町 武雄市・嬉野市	昭和55年（1980）3月24日 / 追加 昭和56年（1981）2月25日
柿右衛門窯跡	佐賀県西松浦郡有田町	平成元年（1989）9月22日
肥前波佐見陶磁器窯跡	長崎県東彼杵郡波佐見町	平成12年（2000）9月6日
大川内鍋島窯跡	佐賀県伊万里市	平成15年（2003）9月16日

5. 皿山の地名

福岡県においては焼物が作られていた所を皿山と称する事例が多数存在する。

皿山の地名については、「皿山」という言い方は肥前有田系統の窯で使われる」（須恵町 2003・大橋 2010）とされている。福岡県内（筑前・筑後・豊前）の皿山地名が全て肥前の影響下に生じたものか否かは俄かに判断できないが、窯や焼物がある所の多くが、下記に示すように皿山と称されていたことは間違いないといえる。

江戸期の事例として、明和4年（1767）11月の『近国焼物大概帳』には「筑前領焼物山三ヶ所」として、須恵皿山・西町皿山・山口皿山が示されているという（須恵町 2003）。

また、寛政8年（1796）9月の『近国焼物大概書上帳』（肥後天草の庄屋・上田家に伝わる文書）で、「柳川領皿山之分」として黒崎皿山・星野皿山、「筑前領皿山之分」として須恵皿山・西町皿山、「豊前領皿山之分」として天野皿山・藤原皿山・添田皿山・今藤皿山・漆尾皿山・清水皿山・小石原皿山が挙げられている。なお、豊前の天野は上野、藤原は道（堂）原〔どうばる〕、今藤の今任とともに田香焼、漆尾は漆生で、上黒田の漆生を指すか。漆生と小石原は筑前だが、豊前の項に記されている。

【福岡県の皿山地名】

現時点で以下の場所が把握される。

所在地	窯名
福岡市南区皿山1～4丁目	野間焼窯
福岡市早良区西新5丁目	東皿山窯
福岡市早良区高取1～2丁目 西皿山	西皿山窯
糟屋郡須恵町上須恵 皿山	須恵焼窯
朝倉郡東峰村大字小石原字中野 皿山	小石原焼
宮若市大字宮田 千石皿山（宮田町 1995）	千石窯
宮若市山口 皿山（若宮町誌 2005）	浅ヶ谷窯
宮若市犬鳴 皿山（若宮町誌 2005）	犬鳴窯
飯塚市野間の高宮西側の小谷の通称（中山 1915.6）	白旗山窯
久留米市合川町隈山 皿山（水原 1992）	朝妻焼窯
久留米市城南町十三部 皿山	柳原焼窯？
八女郡広川町大字広川 皿山（佐々木 2006）	川瀬焼窯
八女市萩尾字池ノ窪 皿山（佐々木 2006）	釈形焼窯？
八女市黒木町鹿子生谷 皿山（浅野 1935）	鹿子生焼窯
大牟田市碑 黒崎皿山	黒崎焼窯
北九州市小倉北区皿山町	小倉清水焼窯？
北九州市小倉北区木町皿山	高保窯

田川郡福智町上野 皿山	上野焼
田川郡大任町今任原 皿山	今任田香焼窯
田川郡香春町高野 → 昔、皿山と言っていた	高野田香焼窯
築上郡上毛町上唐原 皿山	唐原焼窯
嘉麻市上黒田 漆生皿山	黒田窯
嘉麻市上山田 皿山	猪之鼻窯跡
田川郡添田町 添田皿山	不明
京都郡みやこ町豊津 錦原皿山	錦原皿山窯

※その他に、「甕焼山」「巢焼平」などの地名がある。

「甕焼山」は釈形焼窯跡の原料の白土を採集した山を指す。また、「甕焼殿」の墓などもある。

「巢焼平」については、八女市星野村の地名にあり、「巢焼」は「素焼」の転化した地名である。

男ノ子焼窯跡の推定地では「窯所」、周辺には「甕（瓶）焼・亀（窯）床・白岩・砥石場・崩窟（くえがま）・二窟（ふたかま）」などの小字名がある。

Ⅲ 福岡県近世窯業関係遺跡調査

1. 第一次調査（悉皆調査）

まず事務局において、県内の近世窯業遺跡に関する基礎的な情報を集めるために、p8 に先に記した文献以外にも巻末に掲載した参考文献より調査表を作成した。

調査表1は名称、読み、市町村名、所在地、現況（調査表記載時の現在の状況を記載する。例：現地保存、荒地・宅地・畑地など）、旧藩名（福岡藩・秋月藩・久留米藩・柳河藩・三池藩・小倉藩・豊津藩・中津藩など）、経営（藩によるものを藩窯、それ以外を民窯）、調査歴（発掘調査などが行われた年月日）、焼物名、製品（窯跡の出土遺物や表探遺物の器種名）、窯の状況（調査時や表面観察による窯本体の状況）、規模・傾斜角度（窯の計測値）、推定年代（出土遺物等による窯のおおよその操業年代）、備考（窯の特色や史料等による時代背景、窯に関する事柄等を記載する）、参考文献の15項目に設定した。地域は筑前、筑後、豊前の旧国に大別し、対象時代は江戸時代～明治4年（1871）の廃藩置県までを基本とするが、広く情報を集めるために昭和20年頃まで広げた。そのため、近世窯跡の表の後に、参考として明治時代～昭和時代にかけての窯業関係情報を記載している。

調査表2では、近世窯業遺跡に関わるもので、遺構などが現存又は地域の伝承により、現在もその場所が特定できるものを対象とした。以下、5つの種別について情報を収集した。

- 1 陶土の採取地・磁石場など原料の採集地や集積地
- 2 陶磁生産に関わる作業場所や砕石場・水確小屋など、陶磁生産に関わる施設等
- 3 問屋跡・代官所・番所などの陶磁生産・販売・製陶管理などに係る施設
- 4 古陶磁生産に関連する神社・記念碑・墓地（墓碑）など
- 5 その他、上記以外の陶磁生産に関連する遺構・施設など

さらに表には、名称、読み、所在地、現況、種別、推定年代、備考の7項目に分け、ここでも調査表1と同様に旧国の3地域ごとに掲載した。

作成した調査表1と2は、県内60市町村に令和2年9月24日付「近世窯業関係遺跡に係る既存情報の整理について」で照会し、令和2年11月30日付を締切として各物件の情報の確認を依頼した。照会で得られた情報を反映させ、令和3年1月19日開催の第1回福岡県近世窯業関係遺跡調査指導委員会では「福岡県近世窯業関係遺跡調査表1（窯跡）、調査表2（関係遺構）」として、窯跡103件、関連遺跡25件を掲示した。

その後、報告書刊行に向けて最後の内容確認及び追補訂正について、令和5年9月13日付で各市町村へ再度照会を行い、各物件の情報の確認をお願いした。それらの情報を事務局で再整理し、窯跡106件、関係遺跡で56件を把握した。

2. 第二次調査（重点調査）

第二次調査（重点調査）にあたり、(1)福岡という地域の特徴を示す遺跡、(2)遺構の残りが極めて良く保存して価値を伝えるのに適した遺跡という二つの基準の下、調査指導委員会に諮り、対象とすべき窯跡25件を設定した。設定する上で、基本的に調査報告書が刊行されたものや所在不明なものについては除外した。調査では遺跡の位置の特定と現状の把握を行い、写真撮影等の記録作成を行った。

福岡県を代表する焼き物の窯跡として、高取焼の釜床1号窯跡、上野焼の釜ノ口窯跡、皿山本窯跡、岩屋高麗窯跡を調査した。

次に旧三国での地方窯として、筑前では小石原焼関連で一本杉窯跡、大明神窯跡、池の谷窯跡、金敷様裏窯跡、十文字窯跡、野間焼関連で福岡市南区にある野間焼窯跡、焼物名は不明であるが嘉麻市にある黒田窯跡を調査した。

筑後では釈形焼窯跡、鹿子生焼窯跡、池の本焼窯跡、文献史料に詳細に記述のあった筑後市の赤坂焼窯跡、みやま市の二川焼窯跡、焼物名は不明であるが朝倉市にある浄満寺窯跡、野鳥窯跡も対象とした。なお、重点調査時に新たな情報を得た八女市本星野焼窯跡、星野十龍焼窯跡も追加調査した。

豊前では、調査報告書に遺物のみ掲載されたみやこ町乙子焼窯跡と上毛町の唐原焼窯跡、香春町教育委員会から情報のあった香春町田香焼窯跡を対象とした。

また、調査指導委員会において陶器・磁器窯跡以外の窯跡を調査対象とする必要があるとの指摘を受け、筑前で東峰村奥畑瓦窯跡、豊前でみやこ町の錦原血山窯跡の瓦窯跡も追加した。

なお、報告書作成途中で嘉麻市野口窯跡、大牟田市黒崎焼窯跡、八女市男ノ子焼窯跡についての新しい情報を得たので、追加調査として令和5年度に調査を行った。最終的には28件を調査した。

3. 各遺跡の詳細

第二次調査（重点調査）の対象とした窯跡については、調査表と別にp48以降に掲載した。各窯跡については所在地、経営（藩又は民間）、焼物名、年代、現況、備考を列記し、当該窯跡の概要を記載した。また、位置図（国土地理院発行1/25,000地形図）、現況の写真、窯跡実測図、今回調査時に採集した遺物又は市町村所蔵の未報告資料の実測図（1/3又は1/4）を掲載した。実測図中の「陶」は陶器、「磁」は磁器であることを指す。それ以外のものは窯道具である。各窯跡の名称の横に付した番号は調査表1の番号に一致する。

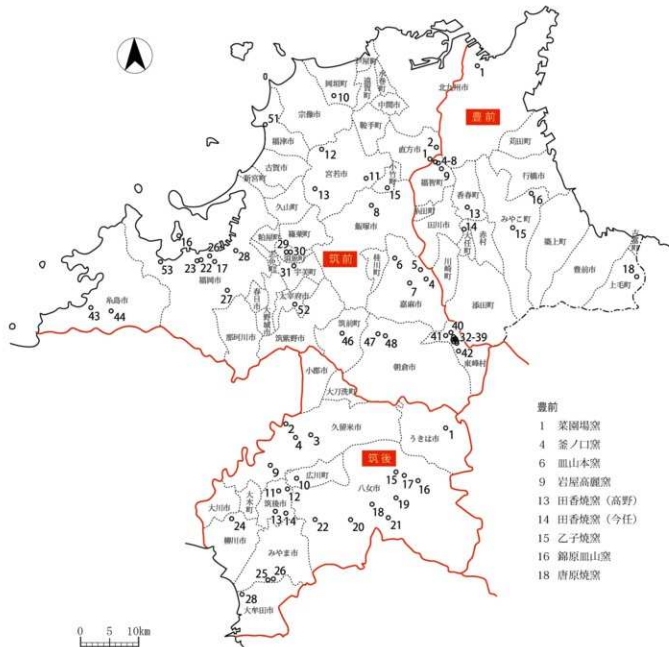
なお、第二次調査（重点調査）の対象以外にも、発掘調査による調査報告書が刊行されている窯跡について、数頁程に要約し掲載した。



第2回近世窯業関係遺跡調査指導委員会



第3回近世窯業関係遺跡調査指導委員会



筑前

- 1 菜園場窯
- 4 釜ノ口窯
- 6 皿山本窯
- 9 岩屋高麗窯
- 13 田香焼窯（高野）
- 14 田香焼窯（今任）
- 15 乙子焼窯
- 16 錦原皿山窯
- 18 唐原焼窯

筑前

- | | | |
|----------|-----------|-----------|
| 1 永満寺宅間窯 | 17 大瀬谷窯 | 38 金敷様表窯 |
| 2 内ヶ磯窯 | 22 東皿山窯 | 39 一本杉窯 |
| 4 山田窯 | 23 西皿山窯 | 40 十文字窯 |
| 5 猪之鼻窯 | 26 今川高取窯 | 41 奥畑瓦窯 |
| 6 黒田窯 | 29 須恵焼窯 | 42 釜床窯 |
| 7 野口窯 | 30 役所畑新窯 | 43 鎌研窯 |
| 8 白旗山窯 | 31 宇美陣子岳窯 | 44 雷山窯 |
| 10 上畑窯 | 32 中野上の原窯 | 46 三並ヒエ子窯 |
| 11 千石窯 | 33 火口谷窯 | 47 浄満寺窯 |
| 12 浅ヶ谷窯 | 34 大明神窯 | 48 野鳥窯 |
| 13 犬鳴窯 | 35 田下祖窯 | 51 津屋崎人形 |
| 15 勝野峰畑窯 | 36 田上祖窯 | |
| 16 能古焼窯 | 37 池の谷窯 | |

筑後

- | | |
|-----------|-----------|
| 1 一の瀬窯 | 18 今村焼窯 |
| 2 柳原焼窯 | 19 釈形焼窯 |
| 3 朝妻焼窯 | 20 養子生焼窯 |
| 4 東野亭焼窯 | 21 池の本焼窯 |
| 9 田川焼窯 | 22 男ノ子焼窯 |
| 10 川瀬焼窯 | 24 涌池焼窯 |
| 11 坂東寺焼窯 | 25 二川焼窯 |
| 12 赤坂焼窯 | 26 バカツクラ窯 |
| 13 水田焼窯 | 27 黒崎焼窯 |
| 14 野町焼窯 | |
| 15 本屋野焼窯 | |
| 16 星野十龍焼窯 | |
| 17 田の原焼窯 | |

福岡県の近世窯業遺跡分布図

表1 福岡県近世窯業関係遺跡調査表 窯跡

窯跡									
名称	読み	市町村名	所在地	現況	旧地名	経緯	調査部	遺物名	
1	赤旗中宅跡窯跡	いんまんにたくら	直方市	直方市大字赤旗寺	山林 跡地保存	福岡	調査済? 1914 中山平次郎 直方市教育委員会 1982.11.15 ~ 12.11 1988.3.15 市史跡指定	高取焼	
2	内ヶ塚窯跡	うちがそ	直方市	直方市大字塚野	水中保存	福岡	調査済 1914 中山平次郎 直方市教育委員会 (第1次)1979.8.17 ~ 12.6 (第2次)1980.5.10 ~ 11.20 (第3次)1981.5.19 ~ 6.23 福岡県教育委員会 (第4次)1995.9.24 ~ 10.30 (第5次)1997.2.9 ~ 3.31 (第6次)1997.5.6 ~ 10.18 (第7次)1998.5.12 ~ 1999.3.19 (第8次)1999.6.18 ~ 2000.3.12	高取焼	
3	山腰窯	やまべ	直方市	直方市山腰 多賀神社の西方	未特定	福岡	未調査		
4	山田窯跡	やまだ	嘉麻市	嘉麻市上山田	山林 水夕山	福岡	民業 1925 移内渡次	高取焼	
5	熊之鼻窯跡	いのはな	嘉麻市	嘉麻市上山田	山林	福岡	民業 調査済 1987 山田市教育委員会 1989.2 1990 再調査	高取焼 (上野系?)	
6	黒前窯跡	くろまへ	嘉麻市	嘉麻市上黒前(逢生)	竹林	福岡	民業 未調査	黒前焼	
7	野口窯跡	のぐち	嘉麻市	嘉麻市大野町	山林	福岡	民業 未調査	上野系?	
8	白旗山窯跡	しらばたやま	飯塚市	飯塚市中字野間	山林	福岡	調査済 1914 中山平次郎 飯塚市教育委員会 (1号窯) 1987.3.1 ~ 8.2 (2号窯) 1988.8.1 ~ 9.9 (3号窯)1990.5.10 ~ 3.22	高取焼 (遠野高取)	
9	栢田窯跡	かいた	飯塚市	飯塚市栢田	未特定	福岡	未調査	高取焼	
10	上原窯跡	じょうはら	明郷町	遠東郡明郷町大字上原平産人山	果樹園	福岡	一部、調査 1936以降 移内渡次 1994.1.8~2.5 福岡町教育委員会	高取焼	
11	平石窯跡	せんにし	宮若市	宮若市宮田字唐人町(平石山)	湧漏	福岡	調査済 宮若市教育委員会 1994.11.24 ~ 12.28	高取焼	
12	浅ヶ谷(新谷)窯跡	あしがたに	宮若市	宮若市山口字浅ヶ谷	山林 崩落	福岡	民業 調査済 1914 中山平次郎 福岡県教育委員会 (1号窯) (第1次)1986.9.30 ~ 11.15 (第2次)1987.4.14 ~ 5.19 (2号窯)1987.5. ~ 7.	高取焼	
13	大崎窯跡	いぬさき	宮若市	宮若市大字大崎字道山	水没	福岡	調査済 1914 中山平次郎 福岡県教育委員会 (1号窯) (第1次)1986.9.30 ~ 11.15 (第2次)1987.4.14 ~ 5.19 (2号窯)1987.5. ~ 7.	高取焼	
14	上野窯		宮若市	宮若市宮田	未特定	福岡	未調査		
15	藤野崎原窯跡	かつのみねはら	小竹町	小竹町大字藤野	湧漏?	福岡	未調査		

表1 福岡県近世窯業関係遺跡調査表 窯跡

	名称	読み	市町村名	所在地	現況	旧番号	経緯	調査経緯	遺物名
16	龍吉橋窯跡	のこ	福岡市	福岡市西区龍吉寺平塚	築地保存	福岡	民業	調査済み 1914 中山平次郎 福岡市教育委員会 1988.10.24 ~ 12.2 1990.3.29 市史館指定	龍吉橋 (礎の遺構)
17	大観谷窯跡	おがんとん おおがんに おおがんに おおがんに おおがんに おおがんに	福岡市	福岡市中央区舞臺1丁目	宅地	福岡	産業	調査 昭和の初め 中山平次郎	瓦取焼 (瓦片等瓦取 又は最高級)
18	友泉亭窯跡	ゆうせんてい	福岡市	福岡市中央区友泉亭付近		福岡	産業	未調査	瓦取焼?
19	西戸山窯	あんどやま	福岡市	福岡市中央区西戸新町(通称)・西戸 上ノ山		福岡	産業	未調査	瓦取焼 (瓦片1979で は西戸山窯)
20	東松山窯	ひがしまつや ま?	福岡市	福岡市城南区東松山? 跡島光松?	宅地	福岡	産業	未調査	瓦取焼 (田島窯)
21	田嶋窯	たじま	福岡市	福岡市早良区田嶋	宅地	福岡	未調査		瓦取焼
22	東山山窯跡(豊原窯)	ひがしよらやま (そはら)	福岡市	福岡市早良区西新行丁目	宅地	福岡	産業	調査	瓦取焼 (東山窯)
	東山窯	ひがしやま				福岡	未調査		
23	西松山窯跡(西新窯 跡)	にしさらやま	福岡市	福岡市早良区西新2丁目	宅地	福岡	産業- 民業	一部、調査 福岡市教育委員会 2005.2.17 ~ 2005.5.17	瓦取焼 (西山窯)
	不明	ふめい	福岡市	福岡市早良区西新町藤崎	宅地	福岡	民業	未調査	瓦取焼 (調査(未)瓦 取又は藤崎 窯)
24	不明	ふめい	福岡市	福岡市早良区西新町宇波山	宅地	福岡	民業	未調査	瓦取焼
	第一窯	えいいちや	福岡市		宅地	福岡	民業	未調査	
25	鳥飼某屋敷(深屋の山 窯)	とりかいちや	福岡市	福岡市城南区鳥飼某屋	宅地	福岡	民業	未調査	瓦取焼 (調査(未)瓦 取又は藤崎 窯)

表1 福岡県近世窯業関係遺跡調査表 窯跡

	名称	読み	市町村名	所在地	現況	旧番名	経緯	調査歴	備考
26	寺川瓦取窯跡	いながわたかと り	福岡市	福岡市中央区寺川	宅地	福岡	瓦窯	一部調査 福岡市教育委員会 1981.5.18～1981.6.2	
27	野間焼窯跡	のま	福岡市	福岡市南区黒山の丁目	宅地 神社	福岡	(窯跡→) 瓦窯	未調査	野間焼
28	赤七焼窯跡	せうしち	福岡市	福岡市博多区福岡町		福岡	瓦窯 (窯跡再 掘)	発掘調査済	瓦(惣)七焼 博多焼
	博多 美焼きもの	はかた すやきも の		福岡市博多区福岡町		福岡	瓦窯	未調査	名無し
	博多 瓦	はかた かわら		福岡市博多区福岡町		福岡	瓦窯 (窯跡再 掘)	未調査	名無し
29	聯合焼	はたい	福岡市	福岡市博多区福岡町		福岡	瓦窯	一部調査 博多遺跡群第213次 福岡市教育委員会 2017.4.5～ 2018.9.5 窯元工業の西端(倉庫部分)は跡地 のため未調査	聯合焼
	博多人物	はかたにんぶつ	福岡市	福岡市博多区福岡町		福岡	瓦窯	一部調査 博多遺跡群第213次 福岡市教育委員会 2017.4.5～ 2018.9.5	河江戸煎に おいては特 設の窯はな い。遺土層に は「裏地人 物」の赤心。 近代以降は 「博多焼地 人形」博多焼 工人形、1974 に遷移
29	須恵体窯跡 [福岡県福岡市東区 須恵]	すゑ かておかほんの かまど	須恵町	福岡県須恵町大字上須恵字東原(黒 山)	3基遺地 保存	福岡	陶器一 瓦窯	調査済み 1974 須恵町教育委員会 (第1次)2006.12.1～2007.3.30 (第2次)2007.12.4～2008.3.31 (第3次)2008.4.22～2008.3.31 (第4次)2009.7.1～2010.3.31 1983.1 株式会社 須恵焼の須恵窯文化財(工芸 品)として「須恵焼倉庫」(国史公刊 第11796.4/1)「発掘録」『須恵焼 利治』(發掘録)(1984.1)『倉庫 行の文化遺産』(「倉庫焼作復活」 2005.7.19)	須恵焼 (赤心焼)

表1 福岡県近世窯業関係遺跡調査表 窯跡

	名称	読み	市町村名	所在地	現況	田番号	経緯	調査経緯	遺物名
30	役所焼新窯跡	やくしよばた	遠志町	糟屋郡遠志町大字上遠志字東原(田山)	山林	福岡	産業	未調査	遠志焼 [倉庫焼]
	宇美陣子古窯跡	うみしよじだけ	宇美町	糟屋郡宇美町陣子谷2丁目	山林	福岡	民家	昭和56年(1981)に、遺物(調査焼の破片)が農田から、壁かけ(調査等)により、窯跡があることが判明した。平成30(2018)年11月に現地調査を行い、調査焼の破片と窯跡に付く遺物を表裏した。	遠志焼 [倉庫焼]
32	中野上の窯跡	なかの かみのほら	東峰村	糟屋郡東峰村大字小石原字中野(田山)	農地保存	福岡	産業 市民	調査済み 1989 小石原村教育委員会 [第1次]1987.8.15 ~ 7.18 [第2次]1988.3.22 ~ 12.2	小石原焼 中野焼
33	大石古窯跡	ひぐもだに	東峰村	糟屋郡東峰村大字小石原字中野(田山)	山林	福岡	民家	[1号窯] 調査済み 小石原村教育委員会 [試掘]1988.9.5 ~ 10.1 [調査]1983.8.2 ~ 12.21 [2号窯] 調査済み 小石原村教育委員会 [調査]1995.9.25 ~ 11.30 [試掘]1996.10.21 ~ 1997.2.24	小石原焼
34	大明神窯跡	だいみょうじん	東峰村	糟屋郡東峰村大字小石原字中野(田山)	宅地	福岡	未調査		小石原焼
35	田下稲窯跡	きやうしもくみ	東峰村	糟屋郡東峰村大字小石原字中野(田山)	農業 農地	福岡	民家	未調査	小石原焼
36	田上稲窯跡	きやううめぐみ	東峰村	糟屋郡東峰村大字小石原字中野(田山)	農	福岡	民家	未調査	小石原焼
37	池の谷窯跡	いけのたに	東峰村	糟屋郡東峰村大字小石原字中野(田山)	宅地	福岡	未調査		
38	倉敷林窯跡	かなしききまうら	東峰村	糟屋郡東峰村大字小石原字中野(田山)	神社 山林	福岡	民家	[1-2号窯]未調査 [3号窯]調査済み 小石原村教育委員会 1992.10.20 ~ 11.27	
39	一本杉窯跡	いっぴんすぎ	東峰村	糟屋郡東峰村大字小石原字中野(田山)	農地保存 山林	福岡	民家	[1号窯]試掘調査 小石原村教育委員会 1992.10.20 ~ 11.27 [2号窯]調査済み 小石原村教育委員会 1994.6 ~ 12.19 1995.5.21 農文研指定	高取焼系?
40	十文字窯跡	じゅうもんじ	東峰村	糟屋郡東峰村大字小石原字中山	山林	福岡	未調査		
41	長組瓦窯跡	おくはた	東峰村	糟屋郡東峰村大字小石原字表焼	山林	福岡	民家	未調査	近代の工業 製品?
42	唐床窯跡	かまどこ	東峰村	糟屋郡東峰村大字表	農地保存	福岡	産業	[1号窯] 調査済み 小石原村教育委員会 [試掘] 1990.12.14 ~ 1991.2.2 [第1次]1991.9.1 ~ 10.14 1995.5.21 農文研指定 [2号窯]未調査	高取焼
43	鶴岡窯跡	かまどぎ	糸島市	糸島市二天宮江		中津	未調査	土地の所有者が改良	

表1 福岡県近世窯業関係遺跡調査表 窯跡

名跡	跡み	市町村名	所在地	状況	田圃名	経営	調査経	遺物名
44 日明窯跡	ひあけ	糸島市	糸島市大字飯屋		唐津 釜前 中津		未調査	
45 雲山窯跡	らんざん	糸島市	糸島市		福岡		未調査	
46 三笠ヒエ字窯跡	みなみひえて	筑前町	朝倉郡筑前町大字三笠	宅地	秋月	民業?	未調査	
47 淨満寺窯跡	じようまんじ	朝倉市	朝倉市長谷山	山林	秋月	藤原	調査	
48 野鳥窯跡	のとり	朝倉市	朝倉市秋月野鳥	山林	秋月	藤原	調査	
49 石崎焼	いしざき	筑前野市	筑前野市石崎	未特定	福岡	民業	未調査	
50 龍尾焼	かずお	不明		未特定			未調査	
51 津屋崎人形	つやざきにんぎょう	福岡市	福岡市	宅地	福岡	民業	未調査	
52 孝前 瓦	さいふん かわら	太宰府市	太宰府市五島1丁目	民家	福岡	民業	未調査	
53 今宿人形	いまじゆくにんぎょう	福岡市	福岡市西区今宿1丁目	ビル	福岡	民業	未調査	今宿人形

筑後

1	一の瀬(朝田)窯跡	いちのせ【あきだ】	うきは市	うきは市朝田郷	山林	久留米	民業	調査	一ノ瀬焼(朝田焼)
2	神原焼窯跡	やなぎはら	久留米市	久留米市篠山町(久留米城内三の丸)	工場	久留米	志保しのみ家、藤原	未調査	神原焼
3	朝妻焼窯跡	あさづま	久留米市	久留米市合川町	山林	久留米	藤原	調査済み 久留米市教育委員会(第1次)1992.1月下旬～3月(第2次)2015.2.12～2.21	朝妻焼
4	美野平(野中)焼窯跡	とうやていのなか	久留米市	久留米市野中町	消滅	久留米	志保しのみ家、藤原 民業	調査済み 久留米市教育委員会 1998.10.14～12.28	美野平(野中焼)
5	十三郎焼窯跡	じゅうさんらふ	久留米市	久留米市合川町十三郎	消滅	久留米	民業	2011年度に10従業員の間取り調査を実施(未報告)	十三郎焼

表1 福岡県近世窯業関係遺跡調査表 窯跡

	名称	跡名	市町村名	所在地	状況	田圃名	経営	調査歴	備考	
6	日蓮焼窯跡	ひわたし ひわたし?	久留米市	久留米市園分町日蓮	未特定	久留米	民営	未調査	日蓮焼	
7	青木焼窯跡	あおき	久留米市	久留米市蓮外町上口屋	未特定	久留米	民営	未調査	青木焼	
8	久留米焼	くもめ	久留米市	久留米近辺	未特定	久留米	民営	未調査	久留米焼	
9	田川焼窯跡	たがわ	久留米市	久留米市三瀬町田川	未特定	久留米	民営	調査	田川焼	
10	川瀬焼	かわせやき	広川町	八女郡広川町大字広川		宅地	久留米	民営	未調査	川瀬焼
11	宝蔵寺焼窯跡(熊野焼)	ぼんどうじ(くまの)	筑後市	筑後市大字熊野		宅地	久留米	運営	調査	宝蔵寺焼(熊野焼)
12	赤坂焼(三原)窯跡	あかさか(みはら)	筑後市	筑後市麓大字赤坂 赤坂神社(三原窯跡)		神社 宅地	久留米	運営	調査	赤坂焼
13	水田焼窯跡	みづた	筑後市	筑後市大字水田		宅地	久留米	運営	調査	水田焼
14	野村焼窯跡	のまち	筑後市	筑後市大字野村		農地	久留米	運営	調査	水田焼
15	星野焼窯跡	ほしの	八女市	八女市星野村大字星野		田圃	久留米 専業一戸 兼業	未調査	星野焼	
16	星野十輪焼窯跡	ほしのぢゅうりん	八女市	八女市星野村誕生十輪		田圃 道路	久留米	運営	調査 「星野焼」電一社(1994.12.22)村指定有形文化財(工芸品)一市指定	星野焼
17	田の原焼	たのはら	八女市	八女市星野村田の原	未特定	久留米		未調査	田の原焼	
18	今村焼窯跡	いまむら	八女市	八女市黒木町寺	未特定	久留米	民営	調査	今村焼	

表1 福岡県近世窯業関係遺跡調査表 窯跡

	名称	跡み	市町村名	所在地	現況	田圃名	経営	調査経	備考名
3	高保窯		北九州市	北九州市小倉北区木町庭山	未特定		民業	未調査	上野焼
4	鹿ノ口窯跡	かまゆち	福智町	田川郡福智町上野	山林	小倉	窯業	調査済小 上野焼組合、田川郷土会、日本陶 磁協会による発掘調査が1955.6～ 5.15に行われる。	上野焼
5	かんバ窯跡	かんば	福智町	田川郡福智町上野	未特定	小倉		未調査 昭和12(1937)年2月に船内焼成が興 業	上野焼
6	田山本窯跡	さらやまぼんが ま	福智町	田川郡福智町上野平山	竹林	小倉	窯業	一部、調査 ※調査済あり 上野焼組合、田川郷土会、日本陶 磁協会による発掘調査が1955.6 ～5.15に行われる。	上野焼
7	山ノ神倉ノ下窯跡		福智町	田川郡福智町上野平山	未特定	小倉		調査?	上野焼
8	かくし窯跡	かくし	福智町	田川郡福智町上野山	未特定	小倉		未調査	上野焼
9	前原高麗窯跡	いわやこうい	福智町	田川郡福智町大字井城前原	山林 遺跡	小倉		一部、調査 上野焼組合上野焼組合及び学生 1955.5～5.6	上野焼
10	古石焼門谷窯跡	きらえもんだに	福智町	田川郡福智町大字井城	未特定	小倉	民業?	未調査	
11	芋貫焼(幸貫窯)		福智町	田川郡福智町	未特定	小倉	民業	未調査	
12	橋軒	きゅうけん	香春町	田川郡香春町	未特定	小倉		未調査	
13	田香焼窯跡	でんこう	香春町	田川郡香春町高野字常安	竹林	小倉	窯業	未調査	高野田香焼
14	田香焼窯跡	でんこう	大任町	田川郡大任町堂原	山林	小倉	窯業	調査済小 大任町教育委員会 (1号窯)1994.1.17～1997.3.31 (2号窯)1994.1.17～1997.2.29 1976.10.1町史跡指定 / 田香焼花 壇(1976.10.1町指定有形文化財(工 業品))	今任田香焼
15	乙子焼窯跡	おとご	みやこ町	直野郡みやこ町大字上高麗	山林	小倉	民業	未調査	乙子焼
16	藤原山窯跡	にしきばらや ま	みやこ町	直野郡みやこ町大字堂津	竹林	小倉→ 豊津	民業	未調査	

表1 福岡県近世窯業関係遺跡調査表 窯跡

	名称	跡小	市町村名	所在地	現況	田圃名	経営	調査書	遺物名
17	湯田山		湯田町	田川郡湯田町	未特定	小倉		未調査	
18	南原焼窯跡	とろびる	上毛町	豊上郡上毛町上原	消	中津		大正15年(1926)8月1日 玉泉大塚昭和11年(1936)5月31日 玉泉大塚 湯崎正井・野村道治ら 1934.11.25 町史採集	南原焼
19	栗山焼	じょうばん			未特定			未調査	
20	太郎助焼	たろすけらく	北九州市	北九州市	未特定	小倉		未調査	
21	水町焼	みずまち	北九州市	北九州市小倉南区水町	未特定	小倉	民業	未調査	

【参考】
筑前

	名称	跡小	市町村名	所在地	現況	田圃名	経営	調査書	遺物名
1	神島製陶所		福岡市	福岡市早良区西新町		福岡		未調査	
2	亀井陶管製造工場		福岡市	福岡市早良区西新町		福岡		未調査	
3	山村製陶所		福岡市	福岡市南区野間山		福岡		未調査	
4	藤野製陶工場		福岡市	福岡市南区野間山		福岡		未調査	
5	藤製陶所		福岡市	福岡市早良区西新町		福岡		未調査	
6	岡本赤焼物製造所		福岡市	福岡市南区野間山		福岡		未調査	
7	高尾赤焼物製造所		福岡市	福岡市南区野間山		福岡		未調査	
8	七輪ほか		福岡市	福岡市中央区住吉		福岡		未調査	
9	蟹谷焼	さぎたに	福岡市	福岡市中央区伊織通		福岡	民業	未調査	
10	土器	かわらけ	福岡市	福岡市早良区飯塚		福岡		未調査	
11	土器	かわらけ	福岡市	福岡市博多区		福岡		未調査	
12	西新陶管製造所		福岡市	福岡市早良区西新町		福岡		未調査	
13	伊佐陶管製造所		福岡市	福岡市早良区西新町		福岡		未調査	
14	高取土管		福岡市	福岡市早良区西新町		福岡		未調査	
15	〔土管窯〕		古賀市	古賀市古賀寺車場附近		福岡		未調査	
16	〔土管窯〕		筑前野市	筑前野市二日市		福岡		未調査	
17	〔土管窯〕		糸島市	糸島市		福岡		未調査	
18	折尾窯	おひら	北九州市	北九州市八幡西区		福岡	民業	未調査	
19	土器	かわらけ	朝倉市	朝倉市甘木		福岡		未調査	
20	土器	かわらけ	古賀市	古賀市在鶴		福岡		未調査	
21	土器田	かわらけ	筑後市	筑後市大井		福岡		未調査	
22	日本製小機五輪株式会社 社尹郊工場		北九州市	北九州市戸畑区藤島通		福岡		未調査	
23	福岡産業株式会社		北九州市	北九州市八幡西区藤田		福岡		未調査	
24	東鉄煉瓦工場		北九州市?	北九州市若松区中川		福岡		未調査	

製品	窯の状況	規模・種類・角度	焼成年代	備考	参考文献
					大観2010東洋陶磁展16号
	階段状開式窯?		江戸初期? 慶長末(信濃1905)	上野道と下野道の境の大泉(ワンダ)の東方を築山といひ、倉裏あり。高取/山の最初の村が、村定一帯は山と呼ばれる。 『石狩川流域遺跡』に産産物類の遺物を掲載する。 長約10m以上、幅3m以上の長條の焼成あり 九大考古学資料館からして遺物を保管 九州歴史資料館にて遺物を保管	奥上野史下巻 大平村誌 信濃村誌(511.6.2) 信濃1905陶磁展 20 『上野原集』 『古賀原集』
			天保頃	上野焼の影響を受けた。新築山と日本館第一窯に記載する。	信河1925日本館第一窯
			慶長年間(1596~1615)~寛永年間(1624~1644) 寛永初(信河1905)	太郎が製した茶器。太郎は上野の工人入夫の弟子。初期では太郎侯といつて賞讃。 鎌川三郎権左衛門向大助の茶器。(信河1915) 『三藩侯の時代太郎と茶器人君之上』とあって茶器場等のことか? (太郎御膳傳) 近江製茶の人。曾孫の人・向井太郎助が、小倉藩で種主・鎌川三郎分の御によりもつら風が、水取を働いた。そば茶の製法を曾孫としたのでこれを太郎御膳といつた。(高橋用詩書)	信色陶器大辞典 信河1925日本館第一窯 信色陶器大辞典 陶磁器 陶磁器辞典 陶磁用辞典
			明治8年(1875)~(信色陶器大辞典)	吉田豊六が製茶。(信色陶器大辞典) 『全数松本村村の古田豊六は、民村高次の土と相違上城村の白土を取り、少許の砂土を混して、黒色の陶器をす。』(信河1925)	信河1925日本館第一窯 信色陶器大辞典 信河1925日本館第一窯

製品	窯の状況	規模・種類・角度	焼成年代	備考	参考文献
絵本鉢			慶長元年(1595)開業	代表者は種島善三郎	全国工場通覧
絵本鉢			享保4年(1719)開業	代表者は亀井源太郎	全国工場通覧
絵本鉢			明治33年(1895)10月開業	代表者は小林源三郎	全国工場通覧
絵本鉢			明治38年(1905)8月開業	代表者は藤野三郎	全国工場通覧
絵本鉢			大正元年(1912)9月開業	代表者は源幸六	全国工場通覧
絵本鉢			大正2年(1913)11月開業	代表者は岡本彦蔵	全国工場通覧
絵本鉢			大正12年(1923)3月開業	代表者は高尾吉吉	全国工場通覧
七輪・土瓶・土鍋・野合程・ゴマノ(手拾得)・火消器・高尾宗火事土管・水筒(信色陶器大辞典)				黒土は加賀産を主とし、その他野田土、五十川土、栗野土、土管、信河土(高尾彦三編著)をあげてあり	工学博士北村第一級窯業全集第3巻1929
煎茶器・花器			明治末~大正初め	甲斐屋のつづいた陶器。寛治は江伊半國の人。二六歳で親法に学び、帰郷に来て高尾を創した。高尾を建てたものには山口高尾に去った。当時の弟子2~3人がその後陶器を作っている。	信色陶器大辞典
陶管			明治40年(1907)2月開業	代表者は種島善三郎	全国工場通覧
陶管			明治43年(1910)3月開業	代表者は伊佐徳之吉	全国工場通覧
瓦				北村第一が天正3年(1613)3月に御番瓦屋、御造業家は4年、西郷土管製造所(明治20年(1887)7月開創)・亀井・源田・種島・伊佐・源、源は豊後と丹波の瓦の種あり。豊後はのちで他は石炭。石炭は明治44年(1899)豊後より運した	工学博士北村第一級窯業全集第3巻1929
土管				北村第一が天正2年(1612)3月に高取土管を調査開した際の記録	工学博士北村第一級窯業全集第3巻1929
土管				北村第一が天正3年(1613)3月に高取土管を調査開した際の記録	工学博士北村第一級窯業全集第3巻1929
土管				北村第一が天正7年(1613)3月に高取土管を調査開した際の記録	工学博士北村第一級窯業全集第3巻1929
土管			明治30年(1897)~明治末年	土管を焼いていた。大正初年(1912)に汽車用の土瓶を焼成する。	信色陶器大辞典1972 工学博士北村第一級窯業全集第3巻1929
				『博多及遠国甘木村にも作るといへども、板造の製に及ばず』(信河陶磁土記) 『百年前博多郡志賀村の内花津津及遠国甘木にて多く製す。此中花津津村の産好し。』(信河陶磁土記附録) 『信河陶磁土記附録下巻』	信河陶磁土記 信河陶磁土記附録下巻
				『百年前博多郡志賀村の内花津津及遠国甘木村にて多く製す。此中花津津村の産好し。』(信河陶磁土記附録) 『信河陶磁土記附録下巻』	信河陶磁土記 信河陶磁土記附録下巻
				土管は(カハラケ)と云われ、御造業の藝の工を製して神と云。(信河陶磁土記附録) 村/一町一町二町(伊予守)。御造業の藝二町(カハラケ)少製せん(伊予守)。伊予守御造業部誌上巻に記載あり。	信河陶磁土記附録 信河陶磁土記附録上巻 信河陶磁土記附録上巻
煎火煉瓦			大正5年(1916)12月開業	代表者は宮武小三郎	全国工場通覧
硝子・煎火煉瓦			大正8年(1919)6月開業	代表者は高尾洋	全国工場通覧
煉瓦			大正11年(1922)3月開業	代表者は松崎トヲ	全国工場通覧

表1 福岡県近世窯業関係遺跡調査表 窯跡

番号	名称	跡名	市町村名	所在地	現況	田圃名	経営	調査経	遺物名
25	戸畑煉瓦製造所		北九州市	北九州市戸畑区戸畑	福岡		未調査		
26	長者原煉瓦製造所	ちやうげんが んがけいぞう しや?	船橋町	糟屋郡船橋町仲原	福岡		未調査		
27	龜山煉瓦工場	かめやまれんが	志免町	糟屋郡志免町(糟屋郡志免町合併)	福岡		未調査		
28	松原煉瓦工場		嘉麻市	嘉麻郡穂井村	福岡		未調査		
29	田原赤煉瓦工場		飯塚市	嘉麻郡穂井村	福岡		未調査		
30	中川煉瓦工場		若宮市	鞍手郡若宮町	福岡		未調査		
31	電気興業所名島工場		福岡市	糟屋郡多々良村	福岡		未調査		
32	瓦〔戸原瓦〕	かわら〔あしやが わら〕	戸原町	遠賀郡戸原町	福岡	民営	未調査		
33	砲々木瓦製造工場		戸原町	遠賀郡戸原町	福岡	民営	未調査		
34	深野瓦製造工場	はまのかわらせ いぞうこうじやう	戸原町	遠賀郡戸原町	福岡	民営	未調査		
35	佐多瓦製造工場	きたかわらせ いぞうこうじやう	戸原町	遠賀郡戸原町	福岡	民営	未調査		
36	井澤瓦製造工場	いざわかわらせ いぞうこうじやう	戸原町	遠賀郡戸原町	福岡	民営	未調査		
37	岡村瓦製造工場	おかむらかわらせ いぞうこうじやう	戸原町	遠賀郡戸原町	福岡	民営	未調査		
38	和田瓦製造工場	わだかわらせ いぞうこうじやう	戸原町	遠賀郡戸原町	福岡	民営	未調査		
39	矢野瓦製造工場	やのかわらせ いぞうこうじやう	戸原町	遠賀郡戸原町	福岡	民営	未調査		
40	瓦	かわら	太宰府市	太宰府市五条	宅地	福岡	民営	未調査	
41	瓦	かわら	太宰府市	太宰府市五条	宅地	福岡	民営	大宰府史跡群190次調査	
42	瓦	かわら	太宰府市	太宰府市華南1丁目	宅地	福岡	民営	未調査	
43	瓦	かわら	太宰府市	太宰府市園分1丁目	宅地	福岡	民営	未調査	
44	瓦	かわら	太宰府市	太宰府市瓦島?	福岡	民営	未調査		
45	瓦煉窯	かわらやきかま	遠賀町	遠賀郡遠賀町大字須賀、遠木	福岡	民営	未調査		
46	瓦煉窯	かわらやきかま	遠賀町	遠賀郡遠賀町	福岡	民営	未調査		
47	瓦煉窯	かわらやきかま	遠賀町	遠賀郡遠賀町遠木	福岡	民営	未調査		
48	瓦煉窯	かわらやきかま	遠賀町	遠賀郡遠賀町大字遠津、島津、須賀、 水守	福岡	民営	未調査		
49	瓦	かわら	福岡市	福岡市博多区	福岡		未調査		
50	瓦	かわら	福岡市	福岡市早良区西飯町	福岡		未調査		
51	瓦	かわら	福岡市	福岡市東区浜男	福岡		未調査		
52	瓦町陶		福岡市	福岡市博多区祇園町	福岡		未調査		
53	瓦	かわら	福岡市	福岡市西区今宿	福岡		未調査		
54	瓦町陶		福岡市	福岡市東区浜男	福岡		未調査		
55	美原瓦製造所		福岡市	福岡市東区多々良	福岡		未調査		
56	新田瓦工場	そまたかわらこう じやう	水巻町	遠賀郡水巻町吉田	福岡		未調査		
57	瓦工場	かわらこうじやう	水巻町	遠賀郡水巻町穂原	福岡		未調査		
58	瓦工場	かわらこうじやう	水巻町	遠賀郡水巻町帆	福岡		未調査		
59	瓦工場	かわらこうじやう	水巻町	遠賀郡水巻町下二	福岡		未調査		
60	瓦	かわら	朝倉市	朝倉市甘木	福岡		未調査		
61	瓦	かわら	朝倉市	朝倉市久壽宮	福岡		未調査		
62	瓦町陶		朝倉市	朝倉市甘木	福岡		未調査		

製品	窯の状況	規模・積料内容	焼成年代	備考	参考文献
耐火煉瓦			明治26年(1903)5月開業	代表者は林幸男	全国工場通覧
煉瓦				地主は井上理三、創業は明治30年(1897)4月(農商務省「工場通覧」)	農商務省1904工場通覧
煉瓦				地主は中村幸一、創業は明治26年(1893)6月(農商務省「工場通覧」)	農商務省1904工場通覧
煉瓦			明治26年(1893)5月開業	代表者は松尾重兵衛	全国工場通覧
煉瓦			明治30年(1897)3月開業	代表者は田中義兵衛	全国工場通覧
煉瓦・瓦			明治42年(1909)3月開業	代表者は中川初太郎	全国工場通覧
煉瓦			大正10年(1921)4月開業	代表者は無記名	全国工場通覧
瓦				瓦製造業は大正11年(1922)度に13工場を数え、生産量は25,000坪	72歳が改訂北九州の名称「戸籍の瓦」
屋根瓦			明治35年(1902)8月開業	代表者は佐々木新市	全国工場通覧
屋根瓦			明治38年(1905)1月開業	代表者は濱野正次郎	全国工場通覧
屋根瓦			大正4年(1915)10月開業	代表者は佐多須太郎	全国工場通覧
屋根瓦			大正6年(1917)1月開業	代表者は井澤次郎吉	全国工場通覧
屋根瓦			大正9年(1920)12月開業	代表者は岡村仁市	全国工場通覧
屋根瓦			大正15年(1926)4月開業	代表者は和田乙作	全国工場通覧
屋根瓦			昭和2年(1927)4月開業	代表者は矢野清	全国工場通覧
瓦			江戸～昭和30年代	平井家経営の瓦窯	筑前国続風土記附録上巻 平井家文庫(大塚文書目録)
瓦	窯の廃棄土坑	未報告	江戸後期	平井家経営の製造瓦窯施設	
瓦			江戸～近代?	太宰府天志堂精進道場の所用瓦(太宰府/れん/中/町/北/川/塚/跡)煉瓦	「遺跡だより」第21号1993太宰府市教育委員会
			近現代	「湧出市川」製瓦	「遺跡だより」第21号1993太宰府市教育委員会
			江戸	「奉前志七」製瓦	「遺跡だより」第21号1993太宰府市教育委員会
瓦				瓦の生産量と所在地、製作者のみ記され詳細は不明な所あり [瓦10 7000枚 別荘 赤土組製] 下流弁野 瓦120,000枚 下流弁野 柳井勝次郎製]	福岡県地理誌 漢方科誌
瓦				瓦窯の戸数、人員、一人又は一戸の労働日数、総日数、一人又は一戸の賃金、資金高のみ記載され、他の詳細は不明。 [瓦製造 10戸 34人、1人22日 7000日 450円 3,465,000円]	島門村は明治40年(1907)
瓦				瓦窯の戸数、労働日数、労働総日数、賃金、資金高の記載のみ記載され、他の詳細は不明。[瓦焼 三戸 200日 800円 760円 400,000円]	浅木村は明治45年(1912)
瓦				昭和15年(1940)頃の「北九州地方瓦工業組合名簿」に黒津2軒、島津8軒、別荘2軒、木守1軒の瓦工場があったと記され、主に京都佐賀等の屋根瓦の製造を行っていた。	漢方科誌 ふるさと
瓦				「博多に瓦窯として、工場の集り住る町一帯あり、屋瓦其七もの瓦窯作る也」(筑前国続風土記)。	筑前国続風土記 筑前国続風土記附録下巻
瓦				瓦窯ありとの記載	筑前国続風土記附録下巻
瓦				瓦窯ありとの記載	筑前国続風土記附録下巻
				「瓦窯(南輪焼といふ)を製する窯六七戸あり、火輪・火ちり・手盛等製品を製す、其中赤七と青瓦工なり、京都深家の窯にも勝れりと云」(筑前国続風土記附録)	筑前国続風土記附録下巻
瓦				「唐津製甘木、種屋製青漆、赤漆赤漆等な所々に作る、又近年志摩製今頃にて作る」(筑前国続風土記) 「又瓦工三戸あり、其製焼に佳なり」(筑前国続風土記附録)	筑前国続風土記 筑前国続風土記附録下巻 筑前国続風土記附録下巻
瓦				「瓦窯を製すれども、博多の瓦窯に及ばず」(筑前国続風土記附録)	筑前国続風土記附録下巻
瓦			明治29年(1896)12月	地主は藤原長作、創業は明治29年12月(農商務省「工場通覧」)	農商務省1904工場通覧
高級煉瓦			嘉永4年(1851)4月開業	代表者は藤原貞三 「五五斗炊湯御伊平製」と水巻の産物としてあげている、商家から明治初年の博多で自由市場で右巻を利用して、初めてつくった、後に江戸で新製(炭山の作成で右巻)のためだけに(昭和30年代)でも工場があるとの記事がありこの瓦工場を造り出した可能性がある。	全国工場通覧 福岡県地理誌
瓦					水巻町誌
瓦					水巻町誌
瓦					水巻町誌
瓦				「唐津製甘木、種屋製青漆、赤漆赤漆等な所々に作る、又近年志摩製今頃にて作る」(筑前国続風土記)	筑前国続風土記 筑前国続風土記附録下巻
瓦				瓦窯ありとの記載	筑前国続風土記附録下巻
瓦				「瓦窯を製すれども、博多の瓦窯に及ばず」(筑前国続風土記附録)	筑前国続風土記附録下巻

表1 福岡県近世窯業関係遺跡調査表 窯跡

	名称	跡名	市町村名	所在地	現況	旧地名	経営	調査歴	遺物名
63	瓦	かわら	古賀市	古賀市青柳		福岡	未調査		
64	瓦	かわら	古賀市	古賀市古賀		福岡	未調査		
65	神楽瓦工場		糸島市	糸島市飯浜		福岡	未調査		
66	甲山製瓦工場		糸島市	糸島市深谷江		福岡	未調査		
67	瓦	かわら	豊後市	豊後市飯塚		福岡	未調査		
68	瓦	かわら	宗像市	宗像市赤馬		福岡	未調査		
69	瓦	かわら	糟屋郡	糟屋郡粕屋町神原・大川		福岡	未調査		
70	長其製造工場		久山町	糟屋郡久山町山田		福岡	未調査		
71	瓦	かわら	北九州市	北九州市八幡西区折尾		福岡	未調査		
72	瓦	かわら	大野城市	大野城市白木原		福岡	民営	未調査	

筑後

1	瓦		八女市	八女市屋野村築地平		久留米	未調査		
2	小野陶管製造所		久留米市?	久留米市小森野?			未調査		
3	三浦製煉所耐火煉瓦工場		大牟田市	大牟田市新町			未調査		
4	松田煉瓦製造所	まつたがわせいどうろ	久留米市	久留米市梅浜町		久留米	未調査		
5	瓦木窯業株式会社	あらかきようぎょう	久留米市	久留米市荒木町	消滅	久留米	民営	未調査	
6	瓦木煉瓦株式会社	あらかきかぶかぶら	久留米市	久留米市荒木町	消滅	久留米	民営	未調査	
7	東窯業株式会社	とうきようぎょう	久留米市	久留米市荒木町	消滅	久留米市	民営	未調査	
8	安徳煉瓦工場	あんどく	久留米市	久留米市中町	消滅	久留米	民営	未調査	
9	九州窯業株式会社瓦木工場	きゅうしゅうようぎょう	久留米市	久留米市荒木町	消滅	久留米	民営	未調査	
10	肥後窯業株式会社	ひちろうぎょう	久留米市	久留米市城島町青木		久留米	民営	未調査	
11	藤木煉瓦工場		柳川市	柳川市三浦町		柳川	未調査		
12	昭和窯業合資会社煉瓦工場	みやま市	みやま市	みやま市瀬原町		柳川	未調査		
13	高橋煉瓦工場	みやま市	みやま市	みやま市瀬原町		柳川	未調査		
14	早織煉瓦工場	大牟田市	大牟田市	大牟田市野馬		柳川	未調査		
15	三井鉱山株式会社三浦製陶所煉瓦工場	大牟田市	大牟田市	大牟田市新開町		柳川	未調査		
16	久留米陶器用瓦	くもはんごようかわら	久留米市	久留米市瀬ノ下町	消滅	久留米	藩営	未調査	
17	日蓮瓦窯跡	ひわたしかわらかま	久留米市	久留米市園分町日蓮	消滅	久留米	民営	未調査	
18	豊満寺瓦窯(瓦塚家)	ぜんだうがわら(別につかけ)	久留米市	久留米市豊満寺町	消滅	久留米	民営	未調査	
19	豊満寺瓦窯(久保山)	ぜんだうがわら(ほやま)	久留米市	久留米市豊満寺町	消滅	久留米	民営	未調査	
20	吉田瓦製造所	よしたからせいどうろ	久留米市	久留米市豊満寺町		久留米	未調査		
21	煉瓦製造工場	ほしごかわらせいどうろ	久留米市	久留米市大塚		久留米	未調査		
22	城島瓦	じょうまから	久留米市	久留米市城島町		久留米	民営	未調査	
23	瓦管瓦工場(瓦製造所)	あらかきかわらこうぎょう	久留米市	久留米市城島町城島		久留米	民営	未調査	

製品	製成状況	規格・種別・用途	推定年代	備考	参考文献
瓦				「復原部甘木、障壁部青森、弁慶部赤瓦など所々にて作る。又近年志摩部中頃に作る。」(筑前国誌瓦土記)	筑前国誌瓦土記
瓦				森山三五郎・倉石瓦師・長崎山三郎瓦師・船橋屋瓦師・三原瓦師・木倉瓦師・福原一徳瓦師・石倉倉吉瓦師など	津田清2009近代化に開けた人関係
黒色青磁瓦			明治23年(1890)3月開業	代表者は伊豆又太郎	全国工場通覧
唐草瓦・平瓦・丸瓦			明治27年(1894)2月開業	代表者は早山一男	全国工場通覧
瓦				瓦師ありとの記載	筑前国誌瓦土記附録下巻
瓦				「復原部甘木、障壁部青森、弁慶部赤瓦など所々にて作る。又近年志摩部中頃に作る。」(筑前国誌瓦土記)	筑前国誌瓦土記附録下巻
瓦				「伊原・大川両村は、むかしから良質の粘土が産出し瓦製造業が盛んでした。一種薄形では、五原地方(屋敷屋敷)が有名であり、大川村では、瓦、唐瓦工場が中心でしたが前者はその跡を見ることができません。』として、大川村の4軒の蔵裏が示されている(相模野誌)	相模野誌
唐草瓦			明治40年(1907)4月開業	代表者は長真吉	全国工場通覧
瓦				瓦は唐瓦をもつてつる。瓦敷3区、燃料は石炭	工学博士北村賢一郎著産業全集第3巻1929
瓦	不明		近代(明治~大正)	「大野城市史」の中に、譲り取り調査の結果、大正時代に「本郷村瓦製造があつた」と記述あり。譲渡譲渡大正調査SP03出土遺物の中に「白木村野村七瀬屋、瓦の焼瓦あり」	大野城市史1997「大野城市史 民俗編」、大野城市教育委員会1997(後述)譲渡論、「大野城市文化財調査報告書第一編」

				「黒焼」は「黒焼」の転化か	津野1925筑後陶業史附録大杉瓦
陶管			大正13年(1924)8月開業	代表者は大塚作次	全国工場通覧
磁管			大正7年(1918)1月開業	代表者は小田清	全国工場通覧
煉瓦			大正13年(1924)12月開業	代表者は松田源太郎	全国工場通覧
煉瓦・瓦その他			大正9年(1920)1月26日～ 全国工場通覧では大正9年2月開業と する	資本金20万円 職工3名 戦後、黒崎市山田に工場を築く。成28年(2014)3月28日 に営業停止し自己破産	福岡県三選部誌 全国工場通覧
煉瓦			大正6年(1917)7月～	資本金1万円 大正10年(1921)には80万圓を製造	福岡県三選部誌
煉瓦			大正9年(1920)1月26日～	資本金20万9千円 全国工場通覧では東置業業大工場とし、代表者は吉野 勲次とする	福岡県三選部誌 全国工場通覧
煉瓦と瓦			大正時代?	大正13年(1924)時点で生産額13,840円、資本金10,000円	福岡県三選部誌
煉瓦その他			大正7年(1918)8月1日～	職工45名	福岡県三選部誌
普通煉瓦			大正7年(1918)12月30日設立	資本金8万円	福岡県三選部誌
普通煉瓦			大正12年(1923)11月開業	代表者は藤木村男	全国工場通覧
普通煉瓦			大正13年(1924)11月開業	代表者は藤田亀太郎	全国工場通覧
普通煉瓦			大正18年(1929)3月開業	代表者は高橋謙造	全国工場通覧
煉瓦			大正12年(1923)3月開業	代表者は江口謙三	全国工場通覧
耐火煉瓦			大正7年(1918)11月開業	代表者は山田清	全国工場通覧
瓦類			元和7(1921)年～不明	丹波の瓦職人三牧右左衛門が有馬家に随伴し久留米へ移住。和瓦師として「唐・唐の和瓦」瓦製造業を営む。山崎東次右衛門、専務9年(1700)より3人共住。唐100瓦職。久留米市街が保存する久留米市街の明治瓦土の文書(6冊)1923/4月野村謙三瓦瓦の原文によれば、三牧右左衛門が野村中村(野村瓦場)で製作。	久留米市街
瓦瓦			江戸時代後期?	三柏文瓦瓦師(江戸寛政五年八月上旬) 福分村自注江原屋敷御門上殿文あり、江原家は御用瓦師三牧家の分家筋。江原家が製瓦瓦師?	久留米市街教育委員会三柏文瓦瓦師文書
丸瓦			平朝一明治末創業	善達寺法印に受領。寺に土木山普請専用の瓦を製造。製品の一部には「善達寺瓦屋(構)印文あり。	善達寺修繕報告書(大塚康一著)編輯2011
瓦			明治30年(1900)以後～昭和13年(1938)頃	尾原家が創業したため、赤子の久保山太郎が跡を継ぎ、市立善達寺保育園の園庭等に製造があった。製品の利瓦には瓦面部に「久保山」の印を押し出すものあり。	大木山道通寺報告書(大塚康一著)編輯2011
瓦				持主は善田信吉。創業は慶応元年(1865)3月(廣務商會「工場通覧」)	長崎商會1904工場通覧
瓦(黒色素焼物)			大正12年(1923)7月開業	代表者は藤塚	全国工場通覧
瓦類(黒色素焼物)	近代以降石炭窯		江戸時代～	江戸時代は大正屋大石窯、内野村住居後藤家が製造を許可され生産。大石窯が復興後一段の転移により遠近される。内野家が中心で、自治体職人長瀬屋が中心。江戸山崎に業者が増加し、大正9年(1918)には186軒の製造業者が1900万枚を製造、69万円の販売額であった。	福岡県三選部誌 長崎商會1904工場通覧
瓦類(黒色素焼物)			大正10年(1921)には13名の職工を雇い、31万枚の瓦を生産。北九州一級産業全集第3巻では大正13年(1924)頃、大木、大塚、尾原、及三牧家の組合(4社)「東洋三選」持主は尾原貞次郎。創業は明治23年(1890)7月(廣務商會「工場通覧」)	福岡県三選部誌 工学博士北村賢一郎著産業全集第3巻1929 廣務商會1904工場通覧	

表1 福岡県近世窯業関係遺跡調査表 窯跡

	名称	跡名	市町村名	所在地	現況	旧跡名	経緯	調査経	遺物名
24	二ノ宮瓦製造所	にのみやからわ せいぞうしよ	久留米市	久留米市城島町大字内野			久留米	未調査	
25	市川煉瓦工場		久留米市	久留米市城島町			久留米	未調査	
26	池田製瓦工場		久留米市	久留米市城島町			久留米	未調査	
27	約儀瓦製造工場	まよばかわらせ いぞうこうじよう	久留米市	久留米市城島町			久留米	未調査	
28	田中瓦製造工場	たなかかわらせ いぞうこうじよう	久留米市	久留米市城島町			久留米	未調査	
29	中村製瓦製造工場		久留米市	久留米市城島町			久留米	未調査	
30	中村瓦製造工場	なかむらかわら せいぞうこうじよ う	久留米市	久留米市城島町			久留米	未調査	
31	今村津瓦製造工場		久留米市	久留米市城島町			久留米	未調査	
32	堀江瓦製造工場	ほりえかわらせ いぞうこうじよう	久留米市	久留米市城島町			久留米	未調査	
33	田中成製瓦工場		久留米市	久留米市城島町			久留米	未調査	
34	今村作瓦製造工場		久留米市	久留米市城島町			久留米	未調査	
35	今村栄瓦製造工場		久留米市	久留米市城島町			久留米	未調査	
36	権藤製瓦工場		久留米市	久留米市城島町			久留米	未調査	
37	今村基瓦製造工場		久留米市	久留米市城島町			久留米	未調査	
38	坂井神瓦工場		久留米市	久留米市城島町			久留米	未調査	
39	所倉瓦製造工場		久留米市	久留米市城島町			久留米	未調査	
40	柳川製瓦工場		久留米市	久留米市城島町			久留米	未調査	
41	田所華瓦工場		久留米市	久留米市城島町江上			久留米	未調査	
42	阪井種瓦工場		久留米市	久留米市城島町			久留米	未調査	
43	池田瓦工場	いけだかわらこ じよう	久留米市	久留米市城島町江上			久留米	未調査	
44	市川伊製瓦工場		久留米市	久留米市城島町			久留米	未調査	
45	江藤製瓦工場		久留米市	久留米市城島町			久留米	未調査	
46	江賀製瓦工場		久留米市	久留米市城島町			久留米	未調査	
47	江賀米製瓦工場		久留米市	久留米市城島町			久留米	未調査	
48	江賀市製瓦工場		久留米市	久留米市城島町			久留米	未調査	
49	原市製瓦工場		久留米市	久留米市城島町			久留米	未調査	
50	榎方製瓦工場		久留米市	久留米市城島町			久留米	未調査	
51	伊(部)船製瓦工場		久留米市	久留米市城島町			久留米	未調査	
52	下坂瓦製造工場	しもさかわらこ いぞうこうじよう	久留米市	久留米市城島町			久留米	未調査	
53	中村助製瓦工場		久留米市	久留米市城島町			久留米	未調査	
54	田中製瓦工場		久留米市	久留米市城島町			久留米	未調査	
55	森山瓦製造工場	もりやまかわら せいぞうこうじよ う	久留米市	久留米市城島町			久留米	未調査	
56	高瓦製造工場	しまかわらせ いぞうこうじよう	久留米市	久留米市城島町			久留米	未調査	
57	原志製瓦工場		久留米市	久留米市城島町			久留米	未調査	
58	今村島製瓦工場		久留米市	久留米市城島町			久留米	未調査	
59	田原米瓦工場		久留米市	久留米市城島町江上			久留米	未調査	
60	田中精瓦工場		久留米市	久留米市城島町江上			久留米	未調査	
61	中園製瓦工場		久留米市	久留米市城島町			久留米	未調査	
62	田中機造瓦工場	たなかしょうてん かわらこいぞうじよ う	久留米市	久留米市城島町江上			久留米	未調査	
63	中村善八		久留米市	久留米市城島町			久留米	未調査	
64	今村眞次郎		久留米市	久留米市城島町			久留米	未調査	
65	中村新八		久留米市	久留米市城島町江島			久留米	未調査	
66	金田瓦製造工場		大木町	三瀬郡大木町大瀧			久留米		
67	高瓦製造工場		大木町	三瀬郡大木町大瀧			久留米		
68	久瓦製造工場		大木町	三瀬郡大木町大瀧			久留米		
69	津瓦製造工場		大木町	三瀬郡大木町大瀧			久留米		
70	出瓦製造工場		大木町	三瀬郡大木町大瀧			久留米		
71	森製瓦製造工場		大木町	三瀬郡大木町大瀧			久留米		
72	瓦		柳川市	柳川市伊保ほか			柳川	未調査	
73	瓦		柳川市	柳川市大和町朝野ほか			柳川	未調査	
74	瓦		柳川市	柳川市三瀬町朝野ほか			柳川	未調査	
75	村田瓦製造工場		柳川市	柳川市三瀬町			柳川		
76	甲斐田製瓦工場		柳川市	柳川市栗原水			柳川		
77	吉沢瓦工場		柳川市	柳川市栗原水			柳川		

製品	窯の状況	種類・燃料・用途	焼成年代	備考	参考文献
瓦				持主は二ノ宮運動。創業は明治31年(1898)5月(農務省「工場通覧」)	農務省「1904工場通覧」
瓦類(黒色素焼物)			明治5年(1872)4月開業	代表者は市川清太郎	全国工場通覧
瓦類(黒色素焼物)			明治9年(1876)10月開業	代表者は池田源太郎	全国工場通覧
瓦類(黒色素焼物)			明治14年(1881)1月開業	代表者は的場次郎	全国工場通覧
瓦類(黒色素焼物)			明治14年(1881)2月開業	代表者は田中英次郎	全国工場通覧
瓦類(黒色素焼物)			明治14年(1881)2月開業	代表者は今村謙次	全国工場通覧
瓦類(黒色素焼物)			明治20年(1887)4月開業	代表者は中村謙次	全国工場通覧
瓦類(黒色素焼物)			明治20年(1887)6月開業	代表者は今村謙太郎	全国工場通覧
瓦類(黒色素焼物)			明治28年(1895)8月開業	代表者は堀江虎吉	全国工場通覧
瓦類(黒色素焼物)			明治30年(1897)1月開業	代表者は田中英吉	全国工場通覧
瓦類(黒色素焼物)			明治30年(1897)4月開業	代表者は今村作太郎	全国工場通覧
瓦類(黒色素焼物)			明治30年(1897)10月開業	代表者は今村実	全国工場通覧
瓦類(黒色素焼物)			明治31年(1898)1月開業	代表者は口増兼久次	全国工場通覧
瓦類(黒色素焼物)			明治32年(1899)5月開業	代表者は今村兼太郎	全国工場通覧
瓦類(黒色素焼物)			明治33年(1900)2月開業	代表者は坂井謙造	全国工場通覧
瓦類(黒色素焼物)			明治34年(1901)2月開業	代表者は藤吉次	全国工場通覧
瓦類(黒色素焼物)			明治36年(1903)10月開業	代表者は藤林善吉	全国工場通覧
瓦類(黒色素焼物)			明治37年(1904)1月開業	代表者は田井善吉、久留米市十間醸造第3次設置で「筑後堀口(堀)・特製/田井製」スタンプがある平瓦出土	全国工場通覧 久留米市文化財調査報告書第306巻2016
瓦類(黒色素焼物)			明治37年(1904)12月開業	代表者は坂井謙次郎	全国工場通覧
瓦類(黒色素焼物)			明治41年(1908)1月開業	代表者は池田正徳	全国工場通覧
瓦類(黒色素焼物)			明治42年(1909)6月開業	代表者は市川源太郎	全国工場通覧
瓦類(黒色素焼物)			明治43年(1910)2月開業	代表者は江藤兼太郎	全国工場通覧
瓦類(黒色素焼物)			明治43年(1910)6月開業	代表者は吉賀義次郎	全国工場通覧
瓦類(黒色素焼物)			明治43年(1910)12月開業	代表者は吉賀兼次郎	全国工場通覧
瓦類(黒色素焼物)			明治44年(1911)2月開業	代表者は吉賀作太郎	全国工場通覧
瓦類(黒色素焼物)			明治44年(1911)4月開業	代表者は藤吉次	全国工場通覧
瓦類(黒色素焼物)			明治45年(1912)2月開業	代表者は綿方梅蔵	全国工場通覧
瓦類(黒色素焼物)			大正1年(1912)9月開業	代表者は柳松重太郎	全国工場通覧
瓦類(黒色素焼物)			大正2年(1913)9月開業	代表者は下坂謙吉	全国工場通覧
瓦類(黒色素焼物)			大正3年(1914)8月開業	代表者は中村敏助	全国工場通覧
瓦類(黒色素焼物)			大正3年(1914)9月開業	代表者は田中英吉	全国工場通覧
瓦類(黒色素焼物)			大正4年(1915)12月開業	代表者は森山茂太郎	全国工場通覧
瓦類(黒色素焼物)			大正7年(1918)2月開業	代表者は島重善	全国工場通覧
瓦類(黒色素焼物)			大正7年(1918)8月開業	代表者は藤吉次郎	全国工場通覧
瓦類(黒色素焼物)			大正9年(1920)12月開業	代表者は今村善吉	全国工場通覧
瓦類(黒色素焼物)			大正10年(1921)1月開業	代表者は藤田実吉	全国工場通覧
瓦類(黒色素焼物)			大正12年(1923)3月開業	代表者は田中敏太郎	全国工場通覧
瓦類(黒色素焼物)			昭和2年(1927)3月開業	代表者は中園佐野吉	全国工場通覧
瓦類(黒色素焼物)			昭和3年(1928)10月開業	代表者は田中源三郎	全国工場通覧
瓦類				久留米市京橋特産醸造第5次設置で「堀島瓦/特製/今村兼次郎」スタンプがある平瓦出土	久留米市第320巻
瓦類				久留米市十間醸造第3次設置で「堀島瓦/特製/今村兼次郎」スタンプがある平瓦出土	久留米市第306巻
瓦類				久留米市十間醸造第3次設置で「堀島瓦/特製/今村兼次郎」スタンプがある平瓦出土	久留米市第306巻
瓦(黒色素焼物)			明治33年(1900)1月開業	代表者は田中英次郎	全国工場通覧
瓦(黒色素焼物)			明治34年(1901)5月開業	代表者は森山康蔵	全国工場通覧
瓦(黒色素焼物)			明治36年(1903)1月開業	代表者は野口久次郎	全国工場通覧
瓦(黒色素焼物)			大正2年(1913)2月開業	代表者は坂井謙	全国工場通覧
瓦(黒色素焼物)			大正2年(1913)12月開業	代表者は森山茂次郎	全国工場通覧
瓦(黒色素焼物)			大正1年(1922)3月開業	代表者は森山源太郎	全国工場通覧
				塩塚川印押	
				矢部川・塩塚川印押	
				伊福川	
				江崎洋瓦店創業、文久2年創業(史料)	
黒色瓦			明治45年(1912)5月開業	代表者は村田新太郎	全国工場通覧
黒色瓦			明治30年(1897)3月開業	代表者は平賀市徳兵衛	全国工場通覧
黒色瓦			大正7年(1918)2月開業	代表者は吉賀貞吉	全国工場通覧

表1 福岡県近世窯業関係遺跡調査表 窯跡

	名称	読み	市町村名	所在地	国	旧地名	材質	調査種	遺物名
78	瓦		藤川市	藤川市大和町中島		藤川			
79	瓦		みやま市	みやま市瀬高町		藤次			
80	瓦		みやま市	みやま市高田町		藤川			
81	瓦		みやま市	みやま市		藤川			
82	田中瓦工場	たなかかわらごうじょう	みやま市	みやま市瀬高町		藤次			
83	末吉瓦工場	すえよしかわらごうじょう	みやま市	みやま市瀬高町		藤川			
84	小宮瓦工場	こみやかわらごうじょう	みやま市	みやま市瀬高町		藤次			
85	大津瓦工場	おおつかわらごうじょう	みやま市	みやま市瀬高町		藤川			
86	高田瓦工場	たかだかわらごうじょう	みやま市	みやま市瀬高町		藤川			
87	西田瓦工場	にしだかわらごうじょう	みやま市	みやま市瀬高町		藤川			
88	甲川瓦工場	ひらかわかわらごうじょう	みやま市	みやま市瀬高町		藤川			
89	大津瓦工場	おおつかわらごうじょう	みやま市	みやま市瀬高町		藤川			
90	大木瓦工場	おおきかわらごうじょう	みやま市	みやま市瀬高町		藤川			
91	末吉瓦工場	すえよしかわらごうじょう	みやま市	みやま市瀬高町		藤川			
92	武米瓦工場	たけすまかわらごうじょう	みやま市	みやま市瀬高町		藤川			
93	石橋瓦工場	いしはしかわらごうじょう	みやま市	みやま市瀬高町		藤川			
94	松藤瓦工場	まつふじかわらごうじょう	みやま市	みやま市瀬高町		藤川			
95	惣藤瓦工場	そうふじかわらごうじょう	みやま市	みやま市瀬高町		藤川			
96	藤宮瓦工場	ふじみやかわらごうじょう	みやま市	みやま市瀬高町		藤川			
97	後藤瓦工場	ごとうかわらごうじょう	みやま市	みやま市瀬高町		藤川			
98	大橋瓦工場	おおはしかわらごうじょう	みやま市	みやま市瀬高町		藤川			
99	藤藤瓦工場	ふじとうかわらごうじょう	みやま市	みやま市瀬高町		藤川			
100	幸田口瓦工場	ゆきだぐちかわらごうじょう	みやま市	みやま市瀬高町		藤川			

壱軒

1	東洋陶器株式会社		北九州市	北九州市小倉区穂崎		小倉	民窯	未調査	
2	門司硬化煉瓦製造所		北九州市	北九州市門司区小森江		小倉	民窯	未調査	
3	文化木炭工場		北九州市	北九州市門司区大層門前町		小倉	民窯	未調査	
4	辻村商店煉瓦部		北九州市	北九州市門司区大里		小倉	民窯	未調査	
	大塚製菓所		北九州市	北九州市門司区大基町		小倉	民窯	未調査	
5	小磯煉瓦工場	おぶくらねが	大任町	熊川郡大任町	宅地	小倉	民窯	未調査	
7	川西煉瓦工場		糸島町	熊川郡糸島町					
8	瓦		豊前市	豊前市大村・鳥飼(足跡には墳とある)			小倉	民窯	未調査
9	瓦		豊前市	豊前市吉木	道路	小倉	民窯	未調査	

番号	名称	読み	種別	所在地	現況	推定年代	備考	参考文献
32	陶工小山田家墓跡	とうこうやまのいえのほかもと	4	道志町大字上道志	道志町409番地内約500坪の古石垣遺構、野焼か、礎石等あり、1951年墓域跡調査実施	天明2年(1792)以降	歴史民俗資料館に当時の調査記録及び刻字高(遺表)収蔵	
41	松永右衛門左衛門の墓	まつながえもんさむらいのはか	4	穂高郡道志町大字上道志	長岡墓地の中に位置する		道志町から天竺に渡った陶工松永家の墓	道志町誌p1140
35	塚土塚跡		1	穂高郡東峰村			「陶土を採掘時に出土した石などが古墳遺構に属したものと判断はできません。」「10米程度掘削したものの間に古墳か不明	東峰村誌第5集
36	天神		4	穂高郡東峰村			「祭日は10月10日。自然石で高さ130m、幅50m、厚240cm、小石積工法築りにあがり」とする	東峰村誌第5集
37	天の神様		4	穂高郡東峰村			村地図84で、「石祠に祀られる」とある	
38	土神様		4	穂高郡東峰村				小石積方式、東峰村誌第5集
39	高取家系代墓地		4	穂高郡東峰村			沿革のため不明	高取家文書
40	天國太神宮		4	穂高郡東峰村			延宝4年(1691)に高取八郎重朝が高取家がこの地に移り住むまでに「主人できた所の神を勧請して建立し、八八八番地が勧請した。」	小石積方式、高取家文書
41	深山山王神社		4				伝承あり七、深田山王の霊がまつたといわれる神話	
42	深田神山の墓		4					道志町誌p1139

筑後

番号	名称	読み	種別	所在地	現況	推定年代	備考	参考文献
1	赤坂神社境内 形式	あかのかみやまのいはいのほ	4	筑後市大字藤倉	現地保存	大正10年(1921)	三原家跡に建立された赤坂神社境内の形式台の礎石が百年前記念 大正10年とある。	
2	高家寺徳天宮記念碑	たかのかみやまのいはいのほ	4	筑後市大字藤倉	現地保存	昭和48年(1973)5月8日	高家寺東大門の礎石に建立された平安末期の築天宮記念碑、建暦十二年(1180)の碑がある。	筑後市神社仏閣調査書 筑後寺巻
3	水田鎮記念碑	みづのやまかみん	4	筑後市大字水田	現地保存	昭和48年(1973)6月	水田家跡が水田鎮を鎮めた場所の石碑、築後建立の歴史によって確認される。	
4	熊ノ子熊家跡【石積】	くまのこやまかまもと	4	八木市立花北山			豊野の山本郷水田が建てられてから「熊ノ子熊家跡」とある(花北町史 上巻412)	
5	川ノヤキの礎	かわのやきどんのいはい	4	八木市黒木町宮原			川ノヤキ町字野原村字宮原山のウツギ工場の礎石にあり、「豊後鎮の礎」とのこと	造野1313筑後調査書
6	池の本家跡		4				本家の礎石 決壊	
7	名瀬二川熊家跡(築)	なせのいはいのほ	4	みやま市高田町下輪田			高家系と築天宮にみる。	
8	森松家之墓	もりまつけのほか	4	八木市豊野村	墓地		森松家之墓の礎に、「森松町熊家跡」の碑がある。	

豊前

番号	名称	読み	種別	所在地	現況	推定年代	備考	参考文献
1	上野本家跡碑	かみのみやまがまもと	4	稲佐町成山	山林	平成14年(2002)10月吉日	け代宮跡敷道により築後400年を記念し建立	
2	日置		4	稲佐町成山	山林	江戸期	地元では大友宗綱の徳政財も稲佐の墓と伝えられる。後の口より吉日=東の稲佐上	
3	日置高家屋敷跡の地蔵	ひまわりのいはいのほ	4	稲佐町成山	山林	平成21年(2009)8月17日		
4	高山橋三郎夫妻の墓	たかねはしざぶろうごうめいのか	4	田川郡豊前町大字高野	墓地	慶応元年(1865)8月	「日置、豊の陶工と考えられる美濃橋三郎とその妻の墓所。」	
5	原土(塚遺地)		1	田川市?		江戸～	上野橋	日本近世書簡史
6	原土(塚遺地)		1	田川市置吉		江戸～	上野橋	日本近世書簡史 小林敏彦「豊前国津波上野橋の発掘とその報告」(東洋史学) 第31号(1964) p27「原土代」本文附録目録「置吉」(置吉=置本原、一輪)

筑前 1 永満寺宅間窯跡

所在地：直方市大字永満寺

経営：福岡藩

焼物名：高取焼

年代：慶長11年(1606)～慶長19年(1614)

現況：山林

備考：市94、県050117として周知化

『高取歴代記録』には慶長5年(1600)の黒田長政入国後、文禄・慶長の役により朝鮮半島から日本へ渡来した八山により鷹取山の麓で製作をはじめたとあり、これが永満寺宅間窯とされる。すなわち高取焼の起源となる窯と評されるが、具体的な開窯年代には慶長11年(1606)や慶長9年(1604)等の諸説がある。慶長19年(1614)の一国一城令による鷹取城座城により閉窯し、内ヶ磯窯に移ったとされる。

窯は鷹取山南麓に位置する。豊前国境に近い地にあり、豊前上野焼の皿山本窯とはおよそ750mしか離れていない。昭和57年(1982)に直方市教育委員会による発掘調査が行われ、全長16.6mの焚口と焼成室6室からなる割竹式登窯が検出された。小皿や碗、瓶など日常製品が多く、茶陶は発掘調査資料には含まれない。釉薬は鐵灰、土灰、褐釉が多く、海鼠釉となるものが目立つ。窯道具にはハマとトチンがある。



窯跡位置図『金田』(1/25,000)

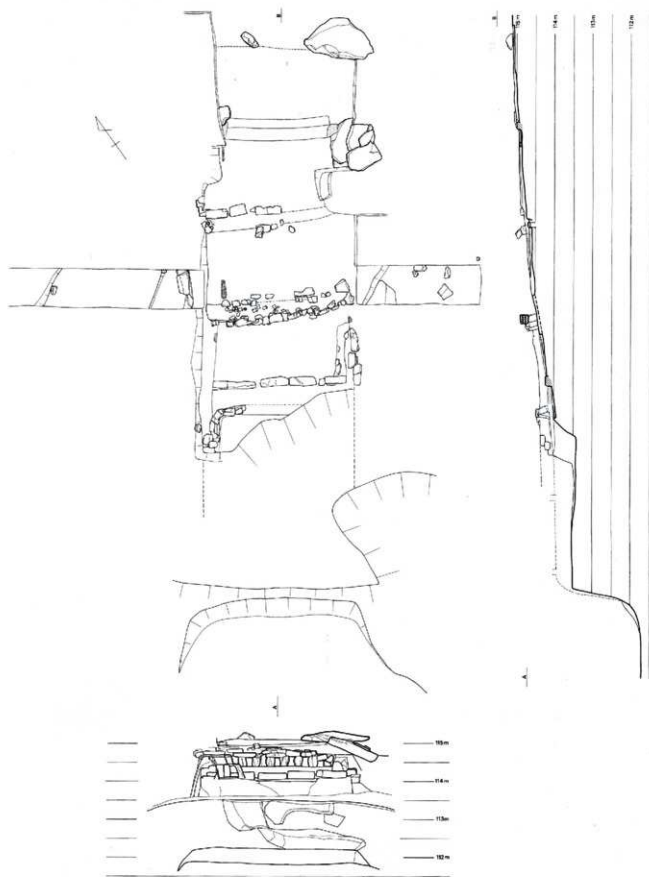


窯跡現況(近景)



窯跡(調査時)

直方市教育委員会提供



永満寺宅間窟跡実測図 (1/100)

筑前2 内ヶ磯窯跡

所在地：直方市大字頓野

経営：福岡藩

焼物名：高取焼

年代：慶長19年（1614）～寛永元年（1624）

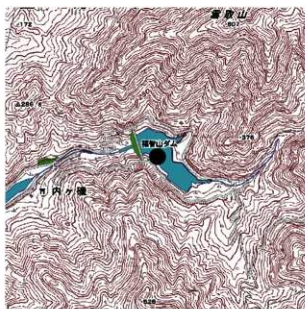
現況：ダム水没

備考：市55、県050118として周知化

『筑前国統風土記』によると朝鮮出兵により渡来した八山により慶長19年（1614）に開窯。『高取家文書』は寛永元年（1624）に、八山父子の帰国願いが二代藩主黒田忠之の揚氣に触れ、山田村へ盤居させられたとある。『筑前国統風土記』には寛永7年（1630）に白旗山に移ったとあることから、その時期まで続いたとする説もある。

窯跡は鷹取山北麓の比較的狭い谷に位置する。昭和54年（1979）から56年（1981）、平成7年（1995）から平成11年（1999）に計8次の発掘調査が行われ、全長46.5mの焚口と焼成室14室からなる階段状連房式登窯が検出され、前面域を中心に工房跡もまた検出された。窯の両脇には厚い物原が形成される。皿や搦鉢など日常製品が多く生産されたが、茶入・茶碗・水指・向付など多様な茶陶もまた生産された。薬灰釉、アメ釉を中心に、多種多様な釉薬が用いられ、掛け分け・イチチン掛け等の技法もみられた。

窯本体は調査後に保存措置が講じられた上で、福智山ダムの湖底に水没している。



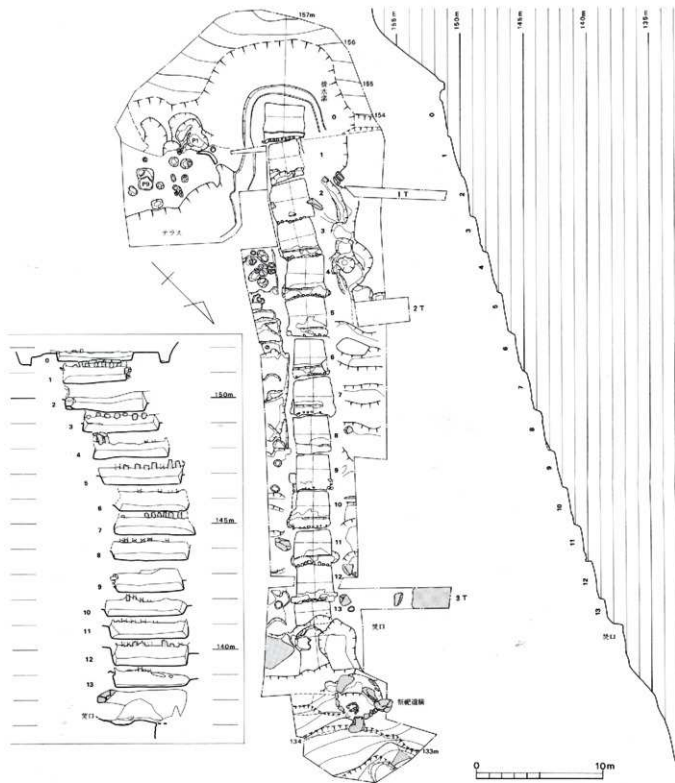
窯跡位置図「徳力」(1/25,000)



窯跡現況（遠景）



窯跡遠景（調査時）



内ヶ磯窯跡実測図 (1/150・1/300)

筑前4 山田窯跡

所在地：嘉麻市上山田

経営：民窯

焼物名：高取焼

年代：寛永元年(1624)～寛永7年(1630)

現況：山林、ボタ山埋没

備考：市2078、県090013として周知化

高取焼初代八山が、黒田忠之が二代藩主になったことを機に帰国を願い出たところ、その怒りに触れて豊居を命じられ、山田に住むことになり『高取家文書』、製陶した窯である。皿・壺・鉢・片口等の日用雑器を焼いたとされる。

筑前と豊前を分ける低い丘陵が続く地にあり、谷の奥部に築かれる。現在はボタ山の堆積下にあり窯跡を確認することはできないが、現地近くには八山の慰霊碑と調査後の昭和11年(1936)に建立された古高取山田窯跡碑が立つ。

昭和10年(1935)に地元有志により発掘調査が行われ、橋内禮次氏により調査成果がまとめられた。陶器の皿や碗、瓶等が出土している。側壁と思われる高まりが残る状況であったとされるが、発掘調査当時の聞き取りでは、かつては1尺程度の側壁と幅2～3尺程度の焚口が残り、窯床は階段状をなしていたとされる。

現在知られている出土品は少ないが、一部は根津美術館に所蔵されている。また近隣にある大庭源太夫の墓所から出土した碗は山田窯で焼かれた可能性が高く、嘉麻市指定文化財(工芸品)に指定されている。



窯跡位置図『金田』(1/25,000)



窯跡現況(遠景)



窯跡現況(古高取山田窯跡碑)

筑前5 猪之鼻窯跡

所在地：嘉麻市上山田

経営：民窯

焼物名：高取焼

年代：元文年間～

現況：山林

備考：市2076として周知化

『筑前国統風土記拾遺』には「猪之鼻に陶工二戸ありて元文の頃より陶器を製せしも近年絶えたり」とある。付近の土地は皿山と呼ばれている。

山田川に近い標高約45mの丘陵裾に位置する。昭和42年(1967)3月に山田市教育委員会(現、嘉麻市教育委員会)により調査がなされ、窯の位置や規模が判明したとされるが、その具体的な内容は今回の調査では確認出来なかった。また、大師堂付近の山林が想定される地点と考えられるが、窯跡を示す状況は確認出来なかった。

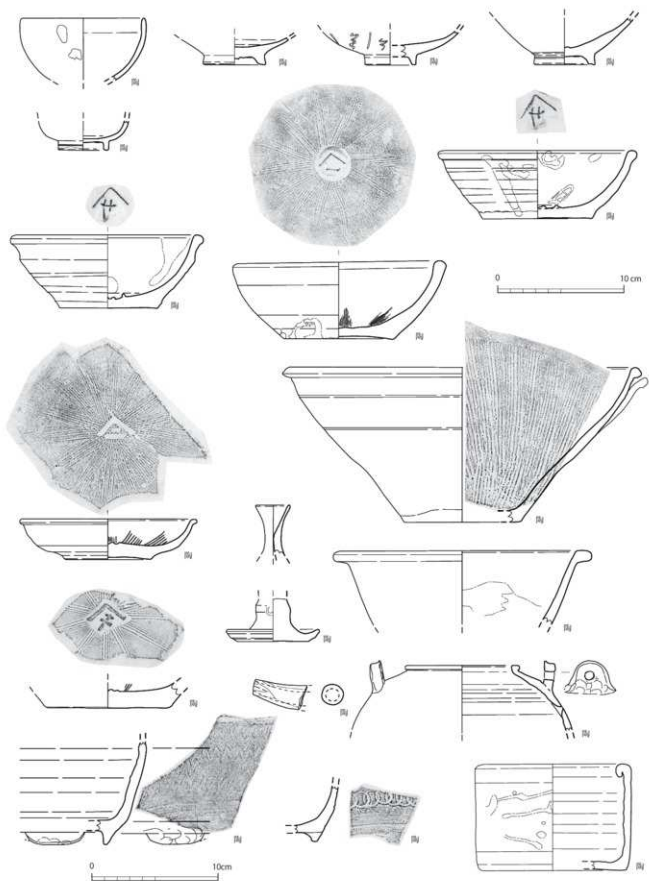
出土品は嘉麻市教育委員会で保管されている。鉢・すり鉢が最も多く、小皿・碗・土瓶・ひょうそく・土管が含まれている。屋号の陽刻・陰刻がある小形の鉢・すり鉢が特徴的である。またトチンやタコハマ等の窯道具が出土している。



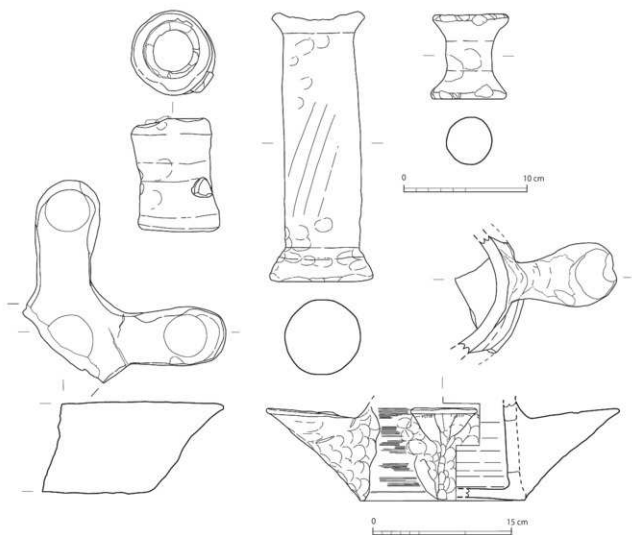
窯跡位置図『筑前山田』(1/25,000)



窯跡現況(推定地遠景)



猪之鼻窟跡出土遺物実測図 1 (1/3・1/4) 嘉麻市教育委員会所蔵



猪之鼻窟跡遺物実測図2 (1/3・1/4) 嘉麻市教育委員会所蔵



猪之鼻窟跡出土遺物

筑前6 黒田窯跡

所在地：嘉麻市上黒田（漆生）

経営：民窯

焼物名：黒田焼

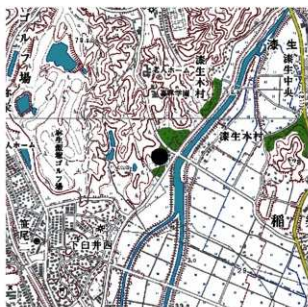
年代：江戸時代末期～明治20年（1887）頃

現況：竹林

備考：市2036として周知化

1979年刊行の『稲築町誌』に江戸時代末期開窯、明治20年（1887）頃閉窯の記載があるが、詳細を追うことはできなかった。

遠賀川に近い標高約49mの尾根先端部に位置する。尾根先端の斜面中段に平坦面があり、窯壁や窯道具、陶片が散乱する。尾根方向と直交する東西方向に0.5～1m程度の比高差で3面が連続して観察されることから、東側を焚口とする窯本体を想定したが、『稲築町誌』では、「上り窯で9個あったという」との記述があり、窯の向きや室数は現状では正確に判断できないと考える。平坦面は南北（幅）3.3～3.6m、東西（奥行）4.5m程度の規模を測る。窯本体推定位置から南に向かった斜面には碗・皿等の陶器片や窯道具（足付サヤ・トチン）、焼土が多量に堆積し、物原を形成している。製品には「黒」の刻印があるとされるが、採集資料では確認できなかった。



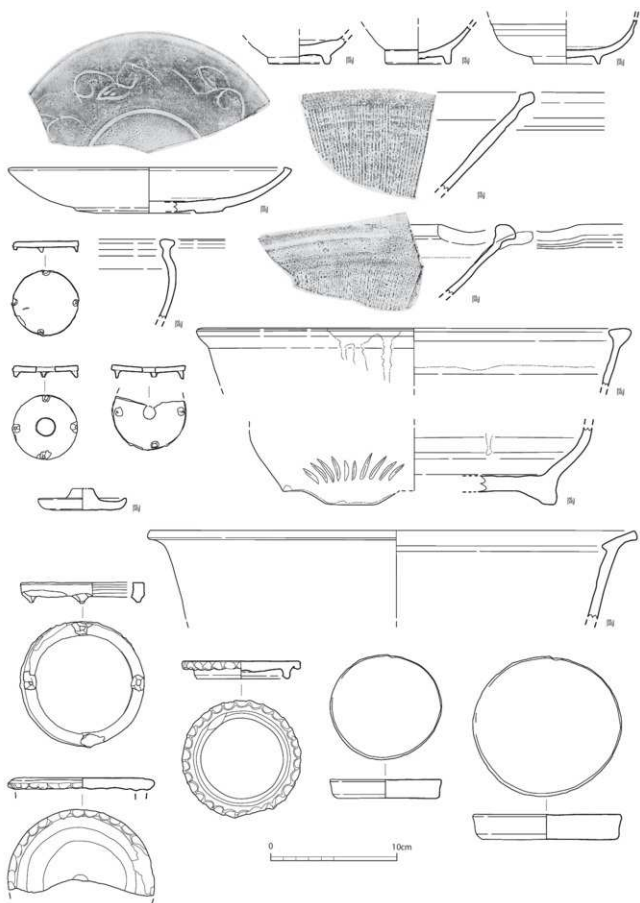
窯跡位置図 『飯塚・大隈』(1/25,000)



窯跡現況（遠景）

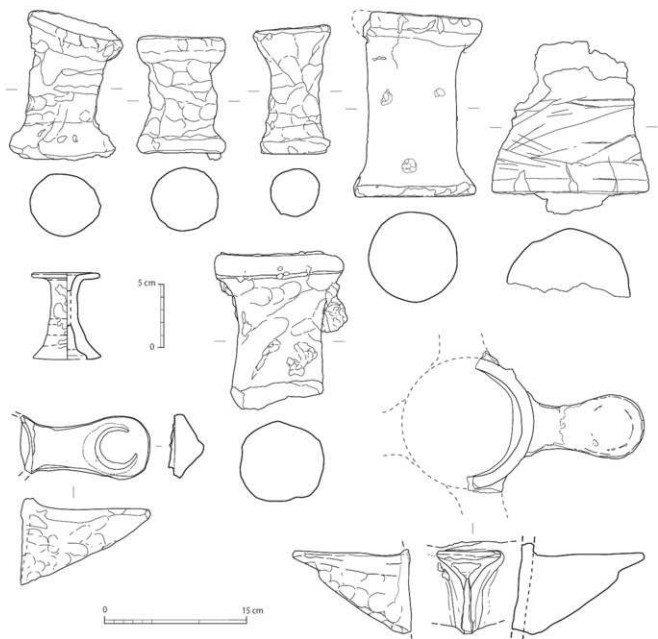


窯跡現況（近景）



黒田窯跡出土遺物実測図 1 (1/3)

九州歴史資料館所蔵



黒田窯跡遺物実測図2 (1/3・1/4)

九州歴史資料館所蔵



黒田窯跡出土遺物

筑前7 野口窯跡

所在地：嘉麻市大隈町

経営：民窯

焼物名：

年代：19 世代？

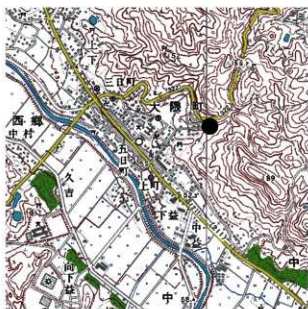
現況：山林

備考：市 2169 として周知化

文献等の記録類にあらわれない窯跡。

大隈集落を外れた丘陵斜面に位置し、旧山田市へ抜ける旧道に近い場所にある。急傾斜地を斜めに登る幅約 4m の古道があり、標高約 90m の地点において道に沿って石垣が築かれている。石垣の上は狭い平坦面をなしており、南側は急傾斜地となる。窯道具は、この古道の周辺に散布しており、石垣を含む造成地に窯を築いていた可能性があるが、現状で窯の構造は確認できない。散布する量は少量で、小規模な窯であった可能性がある。散布地の北側斜面上にも平坦面は見られるが、窯に伴うであろう遺物の散布はみられなかった。

嘉穂市教育委員会に採集資料がバンケース 1 箱保管されている。



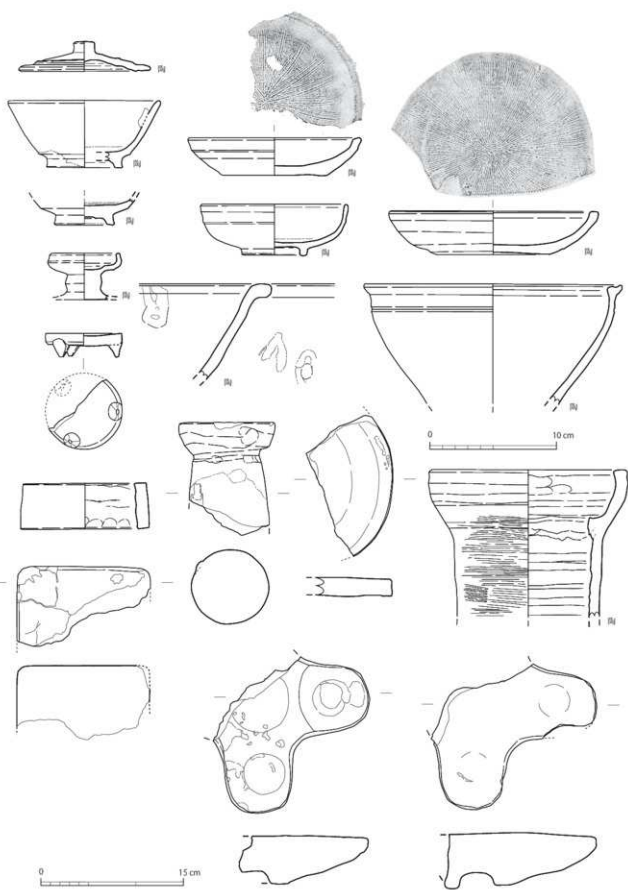
窯跡位置図『大隈・筑前山田』(1/25,000)



窯跡現況 (遠景)



窯跡現況 (近景)



野口窯跡遺物実測図 (1/3・1/4)

嘉麻市教育委員会所蔵

筑前 8 白旗山窯跡

所在地：飯塚市中字野間

経営：福岡藩

焼物名：高取焼

年代：寛永7年(1630)～寛文5年(1665)

現況：山林

備考：市414、県070335として周知化

『高取歴代記録』によると、寛永7年(1630)、山田へ盤居させられていた八山父子の帰参が許され開窯したとされる。寛文5年(1665)に上座郡鼓村に移るまでの間、操業された。その間、八山父子は小堀遠州のもとへ派遣され、指導を受け、遠州好みの茶陶を制作した。

窯は白旗山北麓の東斜面に位置する。昭和62・63年(1987・88)、平成2年(1990)に発掘調査が行われ、3基の窯跡が発見された。1号窯は階段状連房式登窯で、住宅造成のため消滅している部分もあり焼成室7室を検出したが、本来は10室前後と推定され、25mほどの全長に復元される。2・3号窯は1号窯の南約70mに位置し、重複するような形で検出された。2号窯は1室、胴木間、焚口のみ検出され、1号窯と同規模同式の窯と推測される。

1号窯は物原が失われており、出土遺物は少ない。多くがサヤ鉢を中心とした窯道具である。製品はすり鉢等の雑器が多く、茶入・碗等の茶陶もみられる。2号窯からもサヤ鉢を中心に窯道具が多く出土している。すり鉢等の雑器の他、茶入・水指等の茶陶が出土している。また、少数ながら磁器(青磁)片が出土している点は、本県の磁器生産の開始を考える上で重要である。

なお、八山は承応3年(1654)にこの地で没し、近隣に葬られた。八山夫妻、長男の八郎衛門夫妻、孫の善七夫妻の墓所は昭和42年(1967)に改葬されたが、その折に出土した28点の陶磁器は飯塚市指定有形文化財となっている。



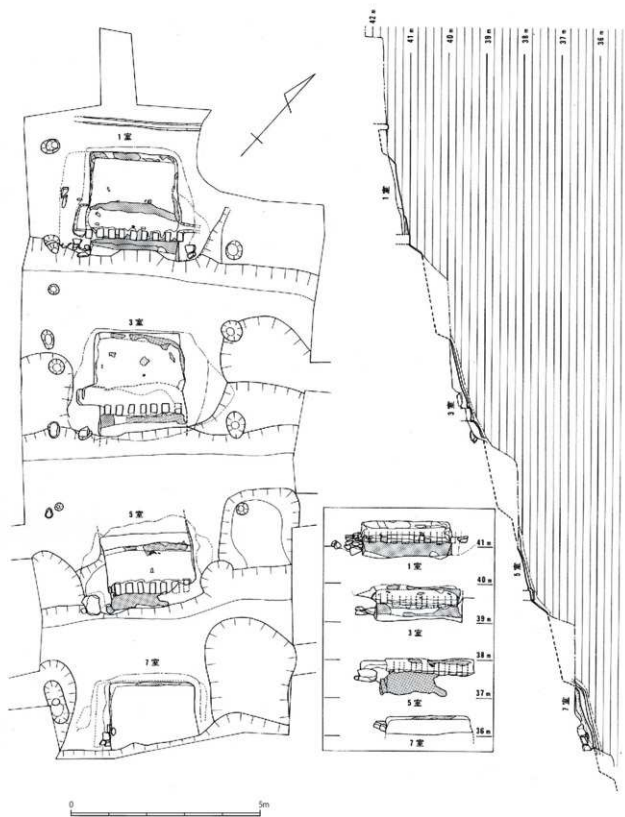
窯跡位置図『直方・飯塚』(1/25,000)



窯跡現況(遠景)



1号窯跡(調査時)
飯塚市教育委員会提供



白旗山1号窯跡实测图 (1/100)

筑前 10 上畑窯跡

所在地：遠賀郡岡垣町大字上畑字唐人山

経 営：

焼物名：高取焼

年 代：17世紀初頭か

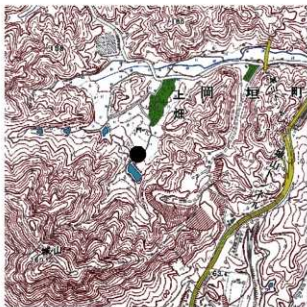
現 況：果樹園

備 考：町390163、県390163として周知化

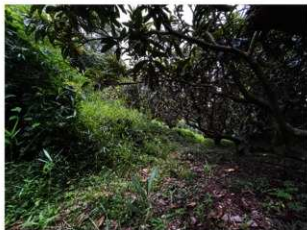
記録類にはあらわれないが、『黒田御用記』にある黒田長政が陶工を芦屋から帰国させるという記事に関連する可能性がある。この記事は慶長12年(1607)頃と考えられ、陶片は高取焼の中でも古式の要素が多く、永満寺宅間窯・千石窯と近い時期に位置付けられる。

窯跡は城山(標高369m)から北東に延びる尾根が緩斜面となる標高約100mの地点に位置する。窯がある土地の字名は唐人山であり、周辺には土取や灰ヶ谷、火渡といった字名が残る。唐人墓があったとされるが、踏査では確認できなかった。

平成6年(1994)に岡垣町教育委員会により確認調査が実施され、焼成室1室を検出した。縦長形で傾斜角約6度を測る。陶器の碗・皿・鉢・小壺が出土。窯道具にはトチンとハマがある。



窯跡位置図『筑前東郷』(1/25,000)

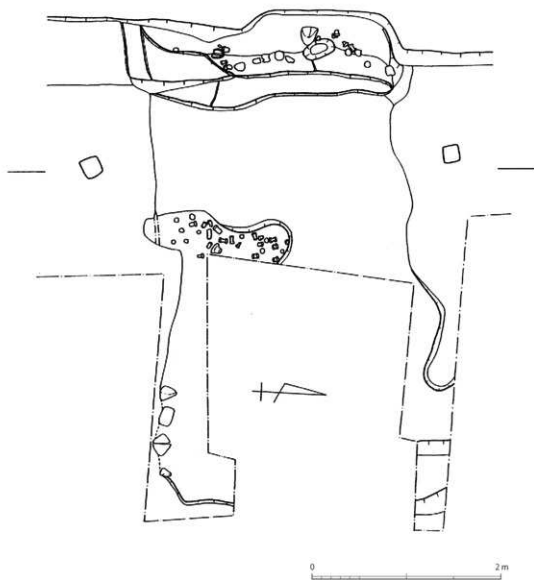
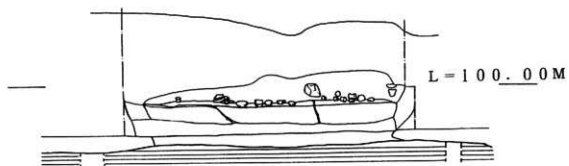


窯跡近景



窯跡(調査時)

岡垣町教育委員会提供



上畑窯跡実測図 (1/40)

筑前 11 千石窯跡

所在地：宮若市宮田字唐人町（千石皿山）

経 営：

焼物名：高取焼

年 代：17世紀初頭か

現 況：消滅

備 考：県 410348 として周知化

記録類にはあらわれないが、上畑窯と同様に『黒田御用記』にある黒田長政が陶工を芦屋から帰国させるという記事に関連する可能性がある。初期に位置付けられる窯として注目されてきた。

窯跡は八木山川右岸の標高約33mの地点で、背後や周辺に急峻な山塊が点在する狭い谷に位置する。

平成6年(1994)に宮田町教育委員会（現、宮若市教育委員会）により確認調査が実施され、ほぼ正方形プランの焼成室1室を検出した。陶器の碗・皿・すり鉢等が出土。窯道具にはトチンとハマがある。陶器の皿はイッチン掛けを多用する点に特徴がある。

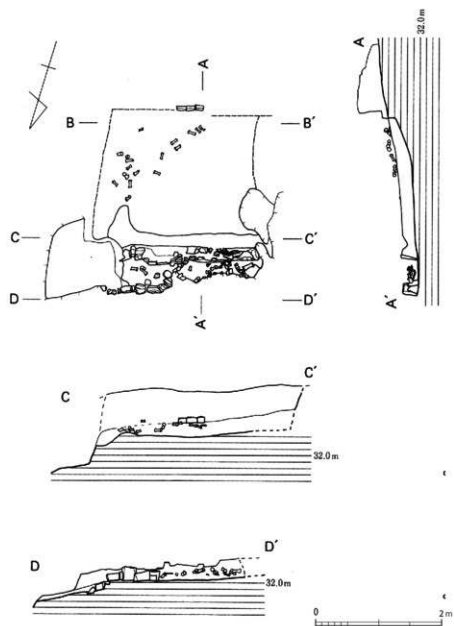
かつては残存が良いとされたが、周辺の採石が進み、窯跡は消滅している。



窯跡位置図 『直方』(1/25,000)



窯跡遠景



千石窟跡実測図 (1/60)



窟跡 (調査時)
宮若市教育委員会提供

筑前 12 浅ヶ谷 [朝谷] 窯跡

所在地：宮若市山口字浅ヶ谷

経営：民窯

焼物名：

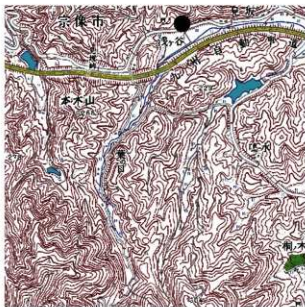
年代：明和4年(1767)～

現況：山林・削平

中村伝五郎編『年代記』（桑野家文書 文政8年(1825)）によれば、明和4年(1767)の条に、鞍手郡山口村（宮若市若宮大字山口）で百姓惣兵衛が屋敷内に窯を造り伊万里焼風の焼き物を焼成したとある。

窯跡は「皿山」と呼ばれ、三坂峠に近い標高約170mの南斜面に位置する。公民館建設により破壊を受けるが、奥壁の一部が残るとされる。表採遺物には、染付の皿、徳利などが見える。高台内面に「山」の文字が書かれた碗が知られる。また、窯道具にトチン、ハマがある。

須恵焼創始とほぼ同時期であるが、短期間の操業とみられる。



窯跡位置図『脇田』（1/25,000）



窯跡遠景



窯跡近景

筑前 13 犬鳴窯跡

所在地：宮若市大字犬鳴字皿山

経 営：

焼物名：高取焼

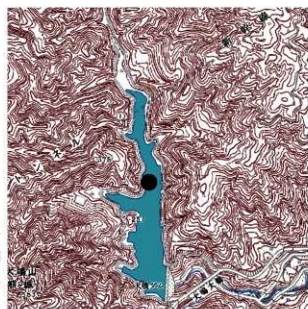
年 代：寛文年間～貞享年間

現 況：ダム水没

備 考：県 440255 として周知化

貝原益軒『筑前国続風土記』(1710)に犬鳴山にて陶器を生産するとの記述があり、『犬鳴山古実』(1729)には「皿山の新四郎」という人物が開窯したと記される。

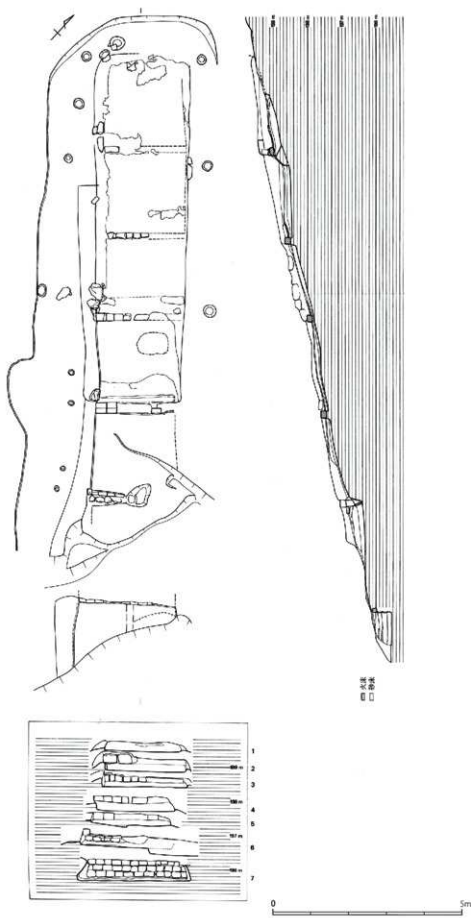
西山山系から発する犬鳴川の渓谷にあり、川を挟んだ東西に2基築かれた。昭和61～62年(1986～87)に犬鳴ダム建設に係り福岡県教育委員会により発掘調査が行われた。削平や自然崩壊により全長は明らかでないが、1号窯は焚口と焼成室8室+aからなる割竹式登窯で、残存長18.5mを測る。2号窯は焼成室5室+aからなり、残存長13mを測る。いずれも1660～80年代の短い期間に、陶器の碗やすり鉢、甕等の日常製品などを焼いた。窯道具ではトチン、ハマが見られ、サヤ鉢も少ないながら確認された。



窯跡位置図『脇田』(1/25,000)



1号窯跡(調査時)



犬鳴1号窯跡実測図(1/100)

筑前 16 能古焼窯跡

所在地：福岡市西区能古

経営：民窯

焼物名：能古焼

年代：明和年間～天明年間

現況：現地保存

『筑前国統風土記附録』に明和の頃から陶器がつくられていた旨の記述がある。また、有田の工人・佐十郎が磁器生産を始めたが、天明7年(1787)頃に逮捕のために役人が赴くとすでに本人は逃亡していたという記録が有田の『皿山代官旧記覚書』に記される。これらの記録から、明和・天明頃(18世紀後半)の一時期に操業した期間の短い窯だと推測できる。

窯は博多湾に浮かぶ能古島の南東の緩斜面に位置する。昭和63年(1988)に発掘調査が行われており、焚口と焼成室7室からなる全長22mの階段状連房式登窯が検出された。各室のしきりにトンバイが用いられる。肥前系磁器の碗・皿・蓋や高取系陶器の碗などが出土しているが、出土品の大半は窯道具である。

平成2年(1990)に市史跡に指定され、覆屋がかげられた上で保存されている。



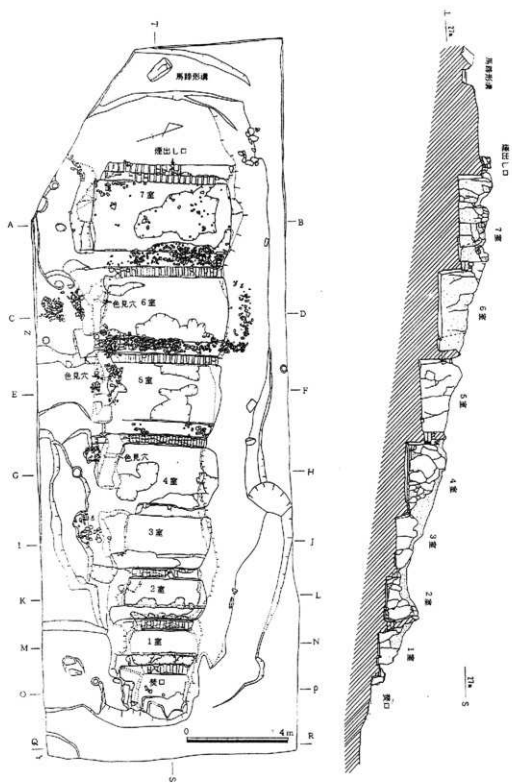
窯跡位置図『福岡西部』(1/25,000)



窯跡遠景



窯跡近景



能古燒窯跡実測図 (1/150)

筑前 22 東皿山窯跡

所在地：福岡市早良区西新5丁目

経 営：福岡藩

焼物名：高取焼

年 代：享保元年(1716)～明治4年(1871)

現 況：宅地

享保元年(1716)に開窯した。明治4年(1871)の廃藩置県まで続き、高取焼の諸窯のなかでは一番操業期間が長く、150年の歴史がある。文化13年(1816)に描かれた見取図から、焼成室8室からなる全長24mの規模であったことがわかる。藩窯であり、茶入・碗・水指・香炉といった茶陶のほか生活全般にわたる多種多様な器種を焼き、贈答用の置物もみられる。文政6年(1823)以降、「高」銘が義務付けられ、藤巴の印文もある。

窯は博多湾沿岸の標高約21mの独立丘陵に位置するが、宅地化しており窯跡は確認されず、陶片や窯道具が採取されるのみである。北に近隣の西新町遺跡から福岡県教育委員会による発掘調査で窯道具が大量に出土しており、東皿山窯に関係するものと考えられる。



窯跡位置図『福岡西南部』(1/25,000)



窯跡近景

筑前 23 西皿山窯跡

所在地：福岡市早良区高取 2 丁目

経営：藩窯→民窯

焼物名：高取焼

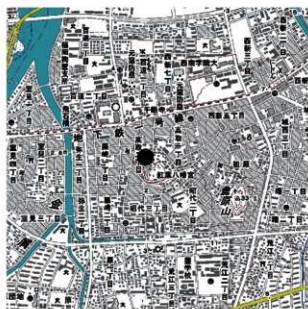
年代：寛保元年(1741)～

現況：宅地

西新窯ともいい、寛保元年(1741)に開窯した。東皿山窯が茶陶を主とする御用窯だったのに対して、本窯では日常製品を焼いており、殖産興業的側面が強い。東皿山窯が大破した際には御用品を焼いていたとされる。『近国焼物山大概書上帳』には「西町皿山 窯二登 此数参拾間」とあり、200人に及ぶ陶業者が従事し、御道具焼物師として知行を受けていた。廃藩置県後には民間窯として存続し、現在は亀井味楽窯が操業を続け、登窯1基が保存されている。

博多湾沿岸の独立丘陵である紅葉山の北麓に位置する。周辺は大規模に開発され、旧地形が大きく損なわれている。

平成17年(2005)の福岡市教育委員会による発掘調査(藤崎遺跡35次)で、物原を掘削した整地面が確認され、多量の陶器が出土した。碗・皿・鉢・瓶・徳利・仏具・灯明皿・甕等、日用雑器が主であるが、高級食器も少量ながら出土した。文政11年(1828)や天保9年(1838)の年号を刻むものもあり、当地点については19世紀前半に位置付けられる。



窯跡位置図 『福岡西南部』(1/25,000)



窯跡遠景



窯跡近景

筑前 27 野間焼窯跡

所在地：福岡市南区皿山

経営：

焼物名：野間焼

年代：安政2年(1855)～明和3年(1870)

現況：宅地・神社境内

福岡藩の殖産興業政策に基づき、安政3年(1856)年には京都の陶工であった佐々木与三らを招致し、陶土を柳河内にて採集し、野間皿山に開窯した。明治8年(1875)、京都から須恵にきた名工の澤田舜山を招致し、傾きかけた窯を立て直した。京焼に似た土瓶・急須・茶碗などの日用雑器や汽車土瓶は需要が大きく、生産が拡大した。

しかし、生活様式の変化に伴い規模が縮小し、近年まで存続したものの現在は操業されていない。窯跡は複数箇所にわたるとされるが、トンバイによる窯壁が残る地点を確認した。また山王神社は陶工が大山咋神と火産霊神を京都から勧請して建てたものであるが、境内で筑前野間焼の銘がある縁起物の土鈴やトンバイ等が採取され、窯の存在が想定された。

なお、澤田舜山の墓は野間窯から近い南区野間2丁目の野間墓地にある。



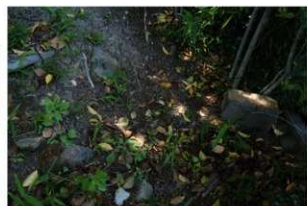
窯跡位置図『福岡南部』(1/25,000)



窯跡現況(窯壁残存地)



澤田舜山の墓



窯跡現況(山王神社)

筑前 29 須恵焼窯跡【福岡藩磁器御用窯跡】

所在地：糟屋郡須恵町大字上須恵字東原（皿山）

経営：藩窯（福岡藩）→民窯

焼物名：須恵焼

年代：宝暦年間（1751～64）～明治35年（1902）

現況：3 基現地保存

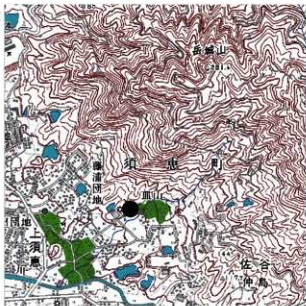
備考：町 290154 として周知化

福岡藩寺社司の下吏、新藤安平が須恵村金山間堀で白土を発見し、焼き物に詳しいものを肥前南川原山で陶法の指導を受けさせて始まったとされる。福岡藩より皿山奉行所が置かれるが、文政12年（1829）に藩の保護が中断した。安政7年（1860）までは民窯へ移行するが、その後、明治3年（1870）までは再度藩窯となり、皿山奉行が設置された。廃藩後は井上伊作・松永吉蔵・金森嘉助により引き継がれる。明治20年（1887）には株式会社が組織され、金錆焼を製作する。明治30年（1897）頃数年の間、朝倉部甘木の玉ノ井勝一郎、藩窯を再興し金錆軸の雑器を製造するが、明治35年（1902）には終焉したかとみられる。

窯は若杉山の南西山麓に位置する。幅が広く長大な窯が残り、上層には7室からなる明治期の窯が築かれた窯が残る。

筑前国統風土記附録（平岡本）須恵皿山陶器所の図では、本窯、試験窯、陶器所のほかに薪小屋、水簸施設、瓦葺建物（製品を保管する蔵と想定される）、一字一石塔（創始者新藤安平の50回忌を供養して孫が建立）、その他建物（付属施設や工人の住居）等が描かれる。

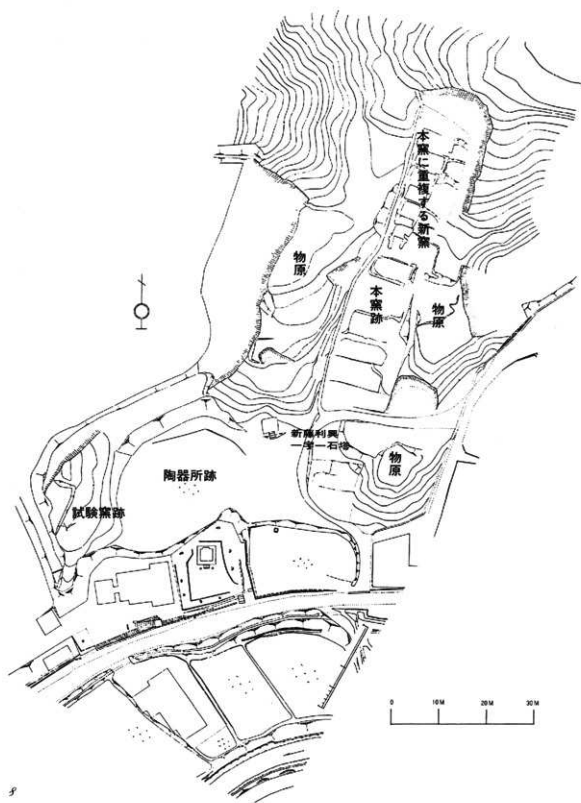
本窯跡は、昭和56年（1981）に県指定史跡に、また町指定有形文化財（工芸品）として「釈迦像台座」・「花立（仏花器）（1978年4月1日指定）/「染付鉢」・「御酒器徳利」2点・「御供鉢」（1982年4月1日指定）/「金錆染付山水文花生」・「金錆染付酒注」（2005年7月19日指定）が指定されている。



窯跡位置図「篠栗」(1/25,000)



須恵陶器所圖（筑前国統風土記附録 平岡本）



須恵焼窯跡遺構配置図 (1/800)

筑前 30 役所畑新窯跡

所在地：糟屋郡須恵町大字上須恵字東原（皿山）

経営：福岡藩

焼物名：須恵焼

年代：江戸時代

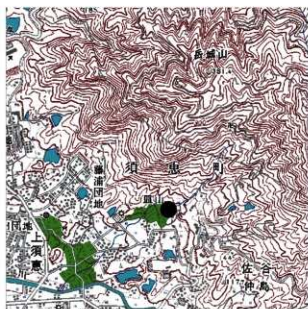
現況：山林

備考：町290161として周知化

「役所畑」の地名が残り、隣接する村山家は「新窯」の屋号を持つ。筑前国続風土記附録（平岡本）須恵皿山陶器所の図では「平原陶丘」と記載がある。

若杉山から西に延びる丘陵裾にあり、福岡藩磁器御用窯から皿山川を挟む対岸に位置する。西斜面が幅広い段々に造成されており、福岡藩磁器御用窯と類する構造とみられる。西に隣接地する平坦地には水碓が残る。

周辺には焼き損じた磁器や窯道具が散布する。採集した窯道具のタコハマやトチンには、「役」「山井」の字が陰刻されていた。



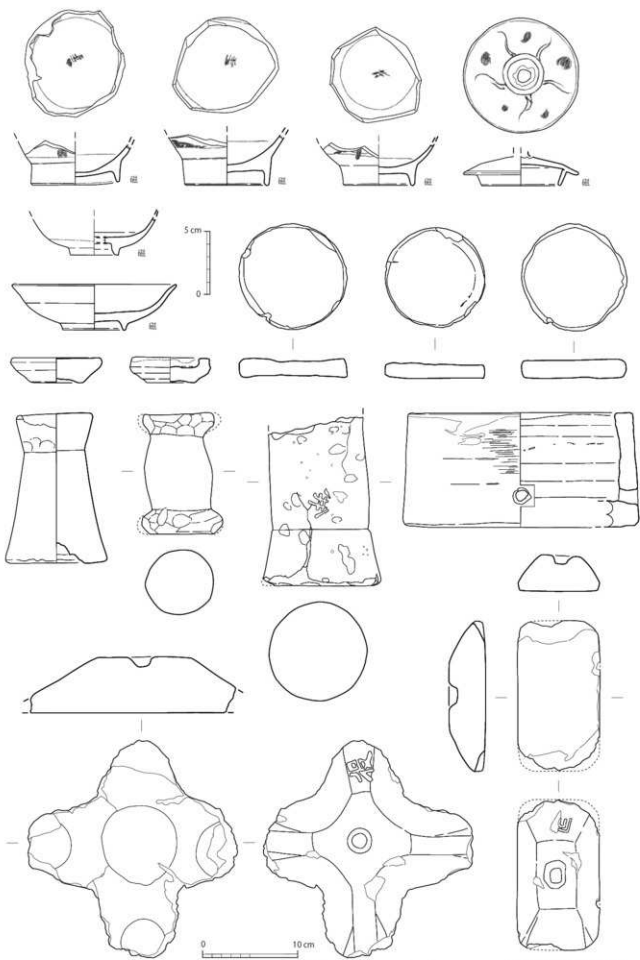
窯跡位置図『篠栗』（1/25,000）



窯跡現況（遠景）



窯跡現況（近景）



役所畑窯跡遺物実測図 (1/3・1/4)

九州歴史資料館所蔵

筑前 31 宇美障子岳窯跡

所在地：糟屋郡宇美町障子岳

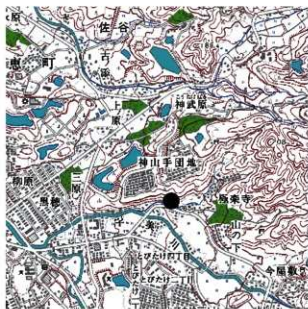
経営：民窯

焼物名：須恵焼

年代：明治期

現況：山林

三郡山系から西に長く伸びた丘陵の裾（標高約 80 m）に位置する。昭和 56 年（1981）の宇美町歴史民俗資料館の踏査により磁器（碗・皿）片や窯道具が表採され、同館に所蔵されている。明治期の須恵焼と共通する特徴をもつ。この地は須恵焼きの登窯に使うための新山として安永 3 年（1774）に藩から認められたとされており、須恵焼との関係が深い地域であった。



窯跡位置図『篠栗』(1/25,000)



窯跡現況（遠景）

筑前 32 中野上の原窯跡

所在地：朝倉郡東峰村小石原字中野（皿山）

経 営：

焼物名：小石原焼・中野焼

年 代：天和 2 年 (1682) ～享保 7 年 (1722)

現 況：現地保存

備 考：村 80、県 550052 として周知化

『筑前国統風土記』の記述に、天和 2 年 (1682) に伊万里から陶工を小石原中野に呼び磁器を焼成したとある。昭和 62 年 (1987) から平成元年 (1989) に小石原村教育委員会（現 東峰村教育委員会）により行われた中野上の原窯の発掘調査で多量の磁器が出土し、記録を裏付ける形となった。

窯は残存長 38.7m の階段状連房式登窯（推定全長：45 m 程）で、焚口のほか燃焼室 10 室が検出された。出土遺物は陶器の他に白磁、染付、色絵がある。陶器は碗・皿・鉢が大部分を占め、他に坏・壺・甕・瓶・水注・香炉・仏飯具・すり鉢・陶管等がある。窯道具にはサヤ鉢、トチン、ハマ、チャツ、シノ（ナンキン）が見られる。特に享保 7 年 (1722) 紀年銘のある陶管が出土しており、閉窯時期を考える資料となっている。



窯跡位置図『小石原』（1/25,000）



窯跡現況（遠景）

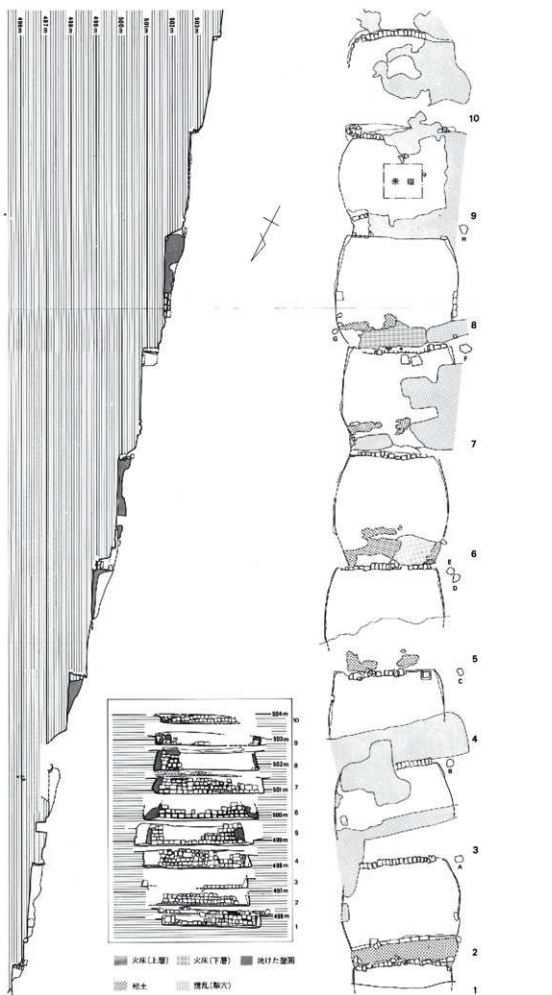


窯跡（調査時）

東峰村教育委員会提供



窯跡現況（近景）



中野上の原窯跡実測図 (1/150)

筑前 33 火口谷窯跡

所在地：朝倉郡東峰村小石原字中野（皿山）

経 営：

焼物名：小石原焼

年 代：〔1号窯〕18世紀前半～中頃

〔2号窯〕1号窯より僅かに先行するか。

現 況：山林

備 考：〔1号窯〕村77、県550053として周知化

〔2号窯〕村78、県550054として周知化

中野上の原窯の西に谷を挟んで位置する。1号窯と2号窯は小さい谷を挟み南北に築かれる。小石原村教育委員会（現、東峰村教育委員会）により、1号窯は平成5年（1993）、2号窯は平成7年（1995）に調査が行われた。

〔1号窯〕

胴木間と10の焼成室からなる全長約42mの階段状連房式登窯。各室の奥壁には2～3段のトンバイが残る。出土品は皿・碗・鉢・すり鉢・仏飯具等で、中野上の原窯の製品に近似する。しかし磁器が含まれないことから、中野上の原窯で磁器焼成を止めてから操業されたものと想定される。

〔2号窯〕

昭和30年（1955）頃に掘られた目砂採りにより、窯の大半は削平される。京焼風の陶器碗の出土が知られる。



窯跡現況（近景）

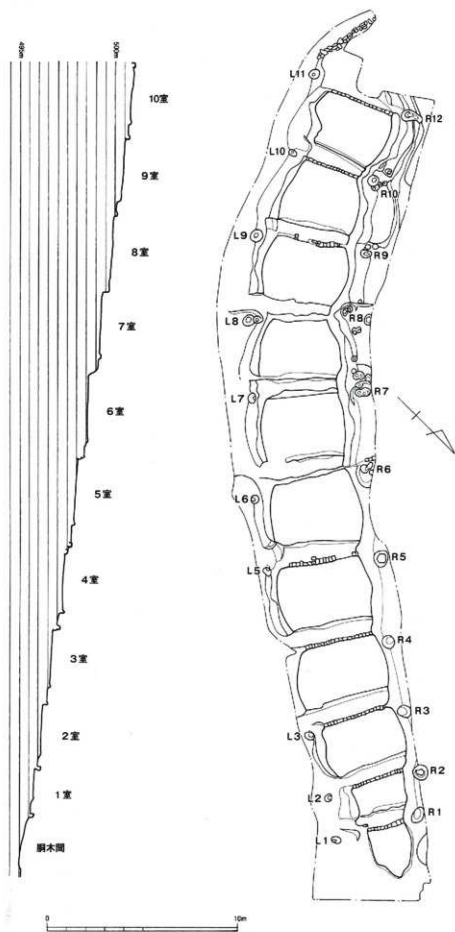


窯跡位置図『小石原』（1/25,000）



窯跡（調査時）

東峰村教育委員会提供



火口谷1号窯跡実測図 (1/200)

筑前 34 大明神窯跡

所在地：朝倉郡東峰村小石原字中野（皿山）

経営：民窯

焼物名：小石原焼

年代：19世紀代か

現況：宅地

備考：村68、県550056として周知化

旧下組窯に近い丘陵西斜面に位置する。個人宅地内にあり、聞き取りにより窯は横壁・天井にトンバイを使用したとされる。今回の調査では、小石原村誌に記述される位置や大明神が祀られる周辺を踏査したが、窯道具が散布する状況は確認されるものの、窯本体に関する情報は得られなかった。



窯跡位置図『小石原』(1/25,000)



窯跡推定地(近景)



窯跡推定地(近景)

筑前 35 旧下組窯跡

筑前 36 旧上組窯跡

所在地：朝倉郡東峰村小石原字中野（皿山）

経営：民窯

焼物名：小石原焼

年代：〔旧下組〕～昭和36年(1961)

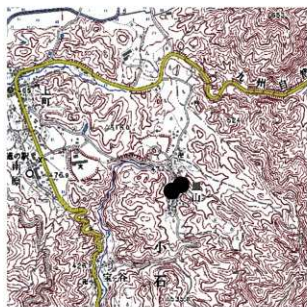
〔旧上組〕～昭和32年(1957)

現況：〔旧下組〕倉庫・畑地

〔旧上組〕窯

備考：〔旧下組〕県：550055・村59

〔旧上組〕県：550057・村73



窯跡位置図『小石原』(1/25,000)

開窯年代は不明だが、かなり古くから操業していたと考えられる。上の原窯等が位置する谷を挟み対峙する位置にある。いずれも焼成室4室からなり、それぞれ4軒で管理運営された共同窯である。昭和30年代まで使用されていた。

〔旧下組〕倉庫や畑地となり、窯跡は確認できない。

〔旧上組〕現在、個人宅に窯があった。



旧下組窯 小石原村誌



旧下組窯跡現況 (近景)



旧上組窯 小石原村誌

筑前 37 池の谷窯跡

所在地：朝倉郡東峰村小石原字中野（皿山）

経営：民窯

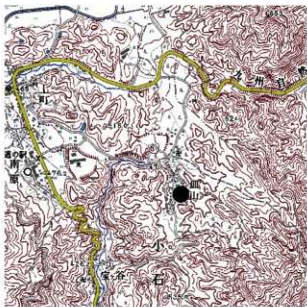
焼物名：小石原焼

年代：18世紀前半か

現況：宅地

備考：村72

旧下組窯や大明神窯が位置する丘陵に南接する斜面に位置する。平成6年(1994)6月合併浄化槽建設中に大量の陶片が出土した。現在の宅地部分に窯があったかと考えられ、現状で窯体に関する情報は得られない。出土品は陶器が多く、火口谷窯と同時期に位置づけられる可能性がある。



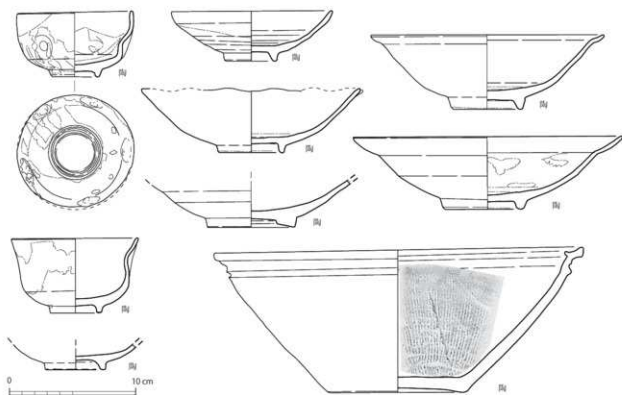
窯跡位置図 『小石原』(1/25,000)



窯跡現況 (遠景)



窯跡現況 (近景)



池の谷窯跡出土遺物実測図（1 / 3）

東峰村教育委員会所蔵



池の谷窯跡出土遺物

筑前 38 金敷様裏窯跡

所在地：朝倉郡東峰村小石原字中野（皿山）

経 営：民窯

焼物名：小石原焼

年 代：18世紀～幕末

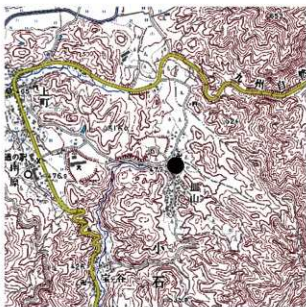
現 況：神社・山林

備 考：村 54～56、県 550058～550060 として周知化

旧下組窯や大明神窯が位置する丘陵の北側に小さい谷を挟んで位置し、窯跡が集中する皿山地区の北端にあたる。丘陵頂部には火の神を祭神とする金敷大明神が祀られている。

3基の窯が約50m間隔で位置するとされ、一番北側の3号窯の確認調査が平成5年(1993)度に小石原村教育委員会(現、東峰村教育委員会)により行われている。4室の焼成室をもつ全長約15mの連房式登窯が検出されている。物原は形成されておらず出土品の量は少ないが、陶器の碗・皿・鉢や窯道具が含まれる。

1・2号窯は藪となっており、踏査で陶片の散布は確認できるものの窯跡は特定できなかったが、かつて採集された陶片が東峰村教育委員会に保管されている。



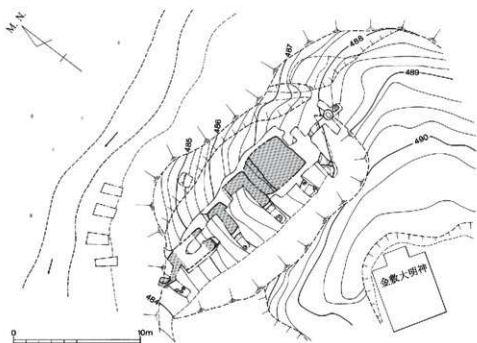
窯跡位置図「小石原」(1/25,000)



窯跡現況(遠景)



3号窯跡現況(近景)



金敷様裏3号窟跡実測図 (1/300)



金敷様裏2号窟跡出土遺物実測図 (1/3)

東峰村教育委員会蔵